

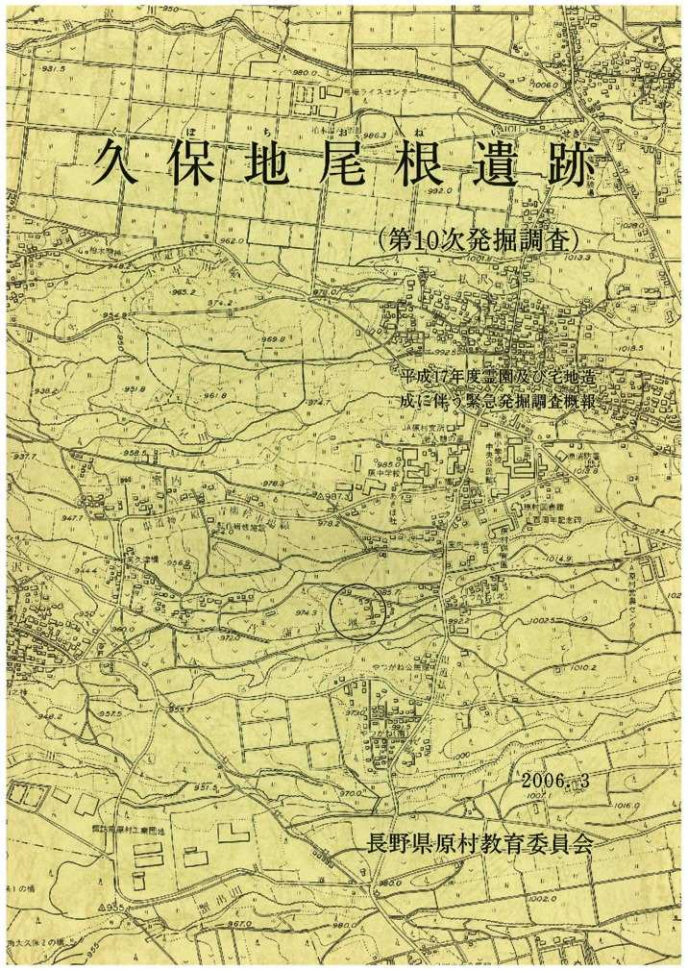
# 久保地尾根遺跡

(第10次発掘調査)

平成17年度霊園及び宅地造成に伴う緊急発掘調査概報

2006.3

長野県原村教育委員会



# 久保地尾根遺跡

(第10次発掘調査)

平成17年度霊園及び宅地造成に伴う緊急発掘調査概報

2006. 3

長野県原村教育委員会



## 序

このたび平成17年度に実施した久保地尾根遺跡第10次発掘調査報告書を刊行することになりました。

発掘調査は、霊園および宅地造成に先立って、原村土地開発公社から委託を受けた原村教育委員会が実施したものであります。

八ヶ岳西南麓一帯は遺跡の宝庫として全国的に著名であります。その一つである久保地尾根遺跡からは、昭和25年に縄文時代中期の埋蔵が、その後も多くの土器と石器の発見があり、縄文時代中期の良好な集落遺跡と考えられています。

発掘調査に携わるたびに、貴重な文化遺産を大切にするとともに、後世に伝えていく責任を強く感じるものであります。開発の流れの中で、いかなる形で遺跡を保護していくことが妥当か検討しているところであります。

発掘調査では、縄文時代中期の住居址9軒・小竪穴173基などをはじめ多くの遺物が発見されています。小竪穴の一つからは翡翠と琥珀の飾玉が並んで出土するなど予想していた以上の成果があり、失われていく貴重な資料を記録に残すことができました。縄文時代を研究する上において貴重な資料を提示することができたものと思っています。

関係各位のご協力と調査に携わった多くの皆様のご苦勞によるものであります。また、報告書刊行にいたる過程で、お世話をいただいた皆様にたいし厚くお礼申し上げます。

平成18年3月

原村教育委員会  
教育長 津金 喜勝

## 例 言

- 1 本報告は「平成17年度霊園及び宅地造成」に先立って実施した、長野県諏訪郡原村室内に所在する久保地尾根遺跡第10次緊急発掘調査概報である。
- 2 発掘調査は、原村土地開発公社から委託をうけた原村教育委員会が、平成17年5月16日から11月4日にかけて実施した。整理作業は、平成17年11月4日から平成18年3月20日まで行った。
- 3 現場における記録と写真撮影は平出一治、遺構の実測は株式会社シン技術コンサルに委託し、小林りえ、坂本ちづるが一部を行い。整理は小林、坂本が行った。
- 4 土器の復原と整理は鎌倉光弥、小島久美子、小林りえ、坂本ちづる、和田孝幸が行い。石器の整理は平林とし美が行った。
- 5 土器の実測は写真実測によるが、写真撮影を株式会社シン技術コンサルに委託し、実測とトレースを平林、和田、拓本を小林、坂本が行い。石器の実測とトレースは株式会社シン技術コンサルに委託し、校正を平林が行った。
- 6 小竪穴一覧表の作成は平出、坂本、掲載土器・石器一覧表は平林、和田が行い、石器計測の一部を鎌倉が行った。
- 7 執筆は平出が行った。
- 8 本調査の出土遺物、記録等はすべて原村教育委員会で保管している。  
なお、本調査関係の資料には、57の原村遺跡番号を表記した。

発掘調査から報告書作成にわたって、上田典男・武藤雄六の諸氏に御指導・御助言をいただいた。厚く御礼申し上げる次第である。

# 目 次

序	
例言	
目次	
図版目次	
I 発掘調査の経過	1
1 発掘調査に至る経過	1
2 発掘調査の経過	1
II 遺跡の位置と環境	2
III 調査の方法	3
IV 発見した遺構と遺物	4
1 住居址	4
第2号竪穴住居址	4
第5・6・9・11・12号住居址	4
第5号竪穴住居址	4
第6号竪穴住居址	10
第9号住居址	15
第11号竪穴住居址	15
第12号住居址	15
第7号竪穴住居址	15
第8号住居址	18
第10号住居址	19
2 小竪穴	19
小竪穴14・15・16・17・19	19
小竪穴13・21・132	19
小竪穴35・58・73・75・82・89~91・93~96・98・99・103・187	19
小竪穴37・137	24
小竪穴38	24
小竪穴101	24
小竪穴出土遺物	24
3 焼土址	24
焼土1	24
焼土3	24
4 遺構外出土遺物	32
V まとめ	32
報告書抄録	

## 図版目次

第1図	久保地尾根遺跡と付近の遺跡	1
第2図	発掘調査区域図・地形図	2
第3図	遺構配置図(付図)	
第4図	第5・6・11号竪穴住居址実測図	5
第5図	第2・5号竪穴住居址出土土器実測図、土器拓影	7
第6図	第5号竪穴住居址出土土器実測図、土器拓影	8
第7図	第5号竪穴住居址出土土器拓影、石器実測図	9
第8図	第5号竪穴住居址出土石器実測図	10
第9図	第6号竪穴住居址出土土器実測図	11
第10図	第6号竪穴住居址出土土器実測図、土器拓影	12
第11図	第6号竪穴住居址出土土器拓影、石器実測図	13
第12図	第6号竪穴住居址出土石器実測図	14
第13図	第7号竪穴住居址実測図	16
第14図	第7号竪穴住居址出土土器実測図、土器拓影	17
第15図	第7号竪穴住居址出土石器実測図	18
第16図	第8・9・10・11号住居址出土土器拓影、石器実測図	20
第17図	小竪穴15・14・132・16・17・89・90・91実測図	21
第18図	小竪穴35・33・37・103・38・82・100・101・58実測図	22
第19図	小竪穴傾向図	23
第20図	小竪穴13出土土器拓影・土製品実測図、遺構外出土土器実測図	25
第21図	小竪穴14・18・21・35・38・73・77・90・101・132・135・焼土1 出土土器実測図、土器拓影、石器実測図	26
第22図	第6・7号竪穴住居址・小竪穴134・焼土1・遺構外出土土器実測図、土器拓影、石器実測図	27
第23図	遺構外出土石器実測図	28
第24図	遺構外出土石器実測図	29
第25図	遺構外出土石器実測図	30
第26図	遺構外出土石器実測図、土師器実測図	31

## 表目次

表1	久保地尾根遺跡発掘調査一覧表	3
表2	小竪穴一覧表	33
表3	掲載土器一覧表	40
表4	掲載石器一覧表	43

# I 発掘調査の経過

## 1 発掘調査に至る経過

久保地尾根遺跡の一角には、すでに区画整備された共同墓地が存在している。前々から増設したい意向のあることは聞いていたが、平成16年度に地元説明が行われるなど計画は具体的になり、遺跡の保護についても協議をはじめたが、その過程で宅地造成を同時に行うことを知ることとなる。

開発は農園と宅地造成の広範囲におよぶため、平成16年11月29日に長野県教育委員会文化財・生涯学習課、原村土地開発公社、原村教育委員会の3者で埋蔵文化財の保護に係る協議を行っている。遺跡は現状のまま保存していくのが最も望ましいことであるが、墓地のない住民も多く造成の意向が強く「記録保存やむなし」との考えに落ち着き、平成17年度に緊急発掘調査を実施し、記録保存をはかる方向で同意をみることができた。

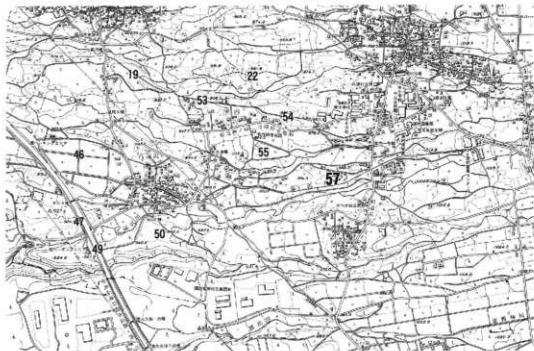
その後も協議を重ね、原村教育委員会は原村開発公社から委託を受け、平成17年5月18日から11月4日にわたり緊急発掘調査を実施した。

## 2 発掘調査の経過（調査日誌抄）

平成17年5月16日 発掘準備をはじめた。

30日 調査地区界の確認、草刈り、上物の片付けを重機ではじめる。

31日 草刈り、重機によるトレンチ掘削をはじめた。



第1図 久保地尾根遺跡と付近の遺跡 57久保地尾根、19南平、22清水、46宿尻、47ヲシキ、49大石、50山の神、53瀬頭沢、54宮ノ下、55中尾根。

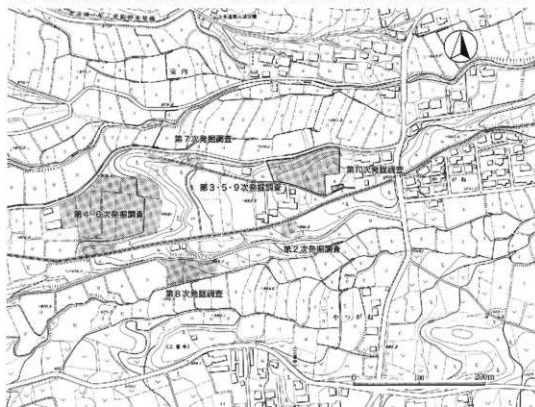


- 6月1日 機材搬入、テント設置を行う。人力でトレンチ内の精査をはじめめる。
- 7日 重機による表土剥ぎ、人力で遺構検出をはじめめる。
- 7月13日 重機で北斜面にトレンチ掘削、引き続き人力で精査をはじめめる。
- 15日 重機で駐車場予定地にトレンチ掘削、引き続き人力で精査を行う。
- 19日 住居址、小堅穴が相次いで確認される。
- 8月8日 小堅穴の精査をはじめめる。
- 17日 住居址の精査をはじめめる。
- 9月14日 小堅穴35の底面から琥珀と翡翠の玉が出土する。
- 10月19日 写真実測・空中写真撮影の準備をはじめめる。
- 20日 空中写真撮影を行う。
- 11月4日 発掘作業を終了する。

## II 遺跡の位置と環境

久保地尾根遺跡(原村遺跡番号57)は、長野県諏訪郡原村の室内区内南方に位置し、県道弘沢・富士見線に接している。村の中心部に近いこともあり住宅建設など開発が進んでいる。

このあたりは八ヶ岳西麓に位置し、東西に細長く発達した大小様々な尾根がみられ、それらの尾根上には、縄文時代中期と平安時代後期などの遺跡が数多く立地し、当地方における遺跡密集地帯である。



第2図 発掘調査区域図・地形図(1:5,000)

その一つである本遺跡は、高蒲沢川と阿久川にはさまれた尾根上から南斜面に立地する。地目は、宅地、普通畑、水田、墓地、山林、公園、道路、水路敷きと多種多様である。標高は調査地点で998m前後を測り、村内では高所に位置していることになる。

発掘調査は第10次を数えるが、表1に示したように埋壘が発見された昭和25年を第1次調査、その後は、住宅建設や村道改良事業などの開発が進んできたことにより、平成6年度から急激に緊急発掘調査が増加し、縄文時代中期後半の集落址であることが明らかになってきている。

表1 久保地尾根遺跡発掘調査一覧表

	調査年度	調査原因	発見遺構等
第1次	昭和25年		埋壘を発見
第2次	平成6年	個人住宅建設	縄文時代中期住居址1軒
第3次	7年	村道改良事業	
第4次	8年	県営圃場整備	
第5次	8年	村道改良	縄文時代中期住居址3軒、小堅穴11基
第6次	8年	県営担い手育成基盤整備事業	小堅穴1基
第7次	13年	個人住宅建設	
第8次	13年	宅地造成	
第9次	14年	村道改良事業	配石遺構
第10次	17年	霊園及び宅地造成	本調査

### Ⅲ 調査の方法

発掘調査は第1図に示したように、平成17年度霊園および住宅団地造成に係る範囲がその対象で、地目は普通畑と山林である。原村誌上巻に本遺跡について「山林として残されている部分が多く、遺物の散布範囲は今もって明瞭にできないでいる。」とみえるが、今もって遺跡の広がりについては不明瞭なままであった。したがって、面的調査範囲の決定は、トレンチ調査による範囲確認からはじめたが、大きな木の切り株が多く、公共座標に軸を合わせた調査が困難なため、尾根上は、ほぼ尾根（東西）方向に規準杭を打設して行った。斜面は、トレンチ間隔を5mに設定したが、切り株の影響でその間隔と方向に違いが生じたところがある。トレンチの幅は重機のバケット幅である1.2mとした。

面的調査範囲が明らかになった時点で、表土剥ぎは重機で、遺構の検出は人力で行った。検出した住居址、小堅穴は発見順に番号を付したが、住居址、小堅穴とも今までの調査において検出されているため、住居址は第5号、小堅穴は13の続き番号からとした。なお、2号住居址は、村道改良事業に先立って実施した第5次調査（平成8年度）で検出したが、調査対象地区の関係から未調査で残されていた部分である。

発掘調査は原則としてローム層の上面まで層別別に行った。したがって遺構の検出面はローム層の上面である。住居址の精査は土層観察ベルトを設定し、小堅穴は平面で二分割し、それぞれ埋土の観察と記録を行いその後全掘している。

遺物の取り上げは、トレンチ調査はトレンチ別、面的調査は2×2mのグリッドを設定しグリッド別、遺構に伴うものは遺構別に行った。なお、グリッドの設定はトレンチ規準杭を用いて原村で従来行ってきた方法に従った。

遺構の実測は株式会社シン技術コンサルに委託し、ラジコンヘリコプターによる写真実測である。調査面積は2,726㎡である。

## IV 発見した遺構と遺物

縄文時代中期の竪穴住居址9軒（内1軒は第5次未調査部分）、小竪穴173基、焼土址2、近・現代の墓塚1基、溝1を検出したが、地目は山林と原野（普通畑）であり、木の根による攪乱が著しく良い状態ではなかった。出土遺物については、図示したものを記載しただけである。

カッコ付けの数値は、対象用地の関係で掘掘できなかった遺構の調査範囲、重複等により欠損した遺構の現存部分を示したものである。

なお、図示できた遺物の概要については一覧表とした。

### 1 住居址

#### 第2号竪穴住居址（第5図）

面的調査を行ったB I-44・45、B J-44・45グリッドで検出したが、平成8年度に村道改良工事に先立ち実施した第5次発掘調査で調査した住居址の未調査部分にあたる。

平面形は径4m程の円形を呈するが、2.3m×0.7mの僅かな範囲の調査であり、今後刊行する第5次発掘調査報告書で住居址全体の図示を考えている。ここでは簡単に触れるにとどめておきたい。

平面形は、径4m程の隅丸方形に近い円形を呈するが、本調査では2.3m×0.7mの僅かな範囲の調査である。埋土は、道路際の掘り込み面で観察したが、ローム粒と僅かな炭化物が混じる褐色土である。

壁は、ロームであるがだらだらと落ち込み良くない。周溝は、検出できなかった。床面は、ロームでほぼ平らであるが軟弱で良くない。柱穴はP4の1基を検出した。

遺物は少ないが土器があり、第5図1・2である。

#### 第5・6・9・11・12号住居址（写真4）

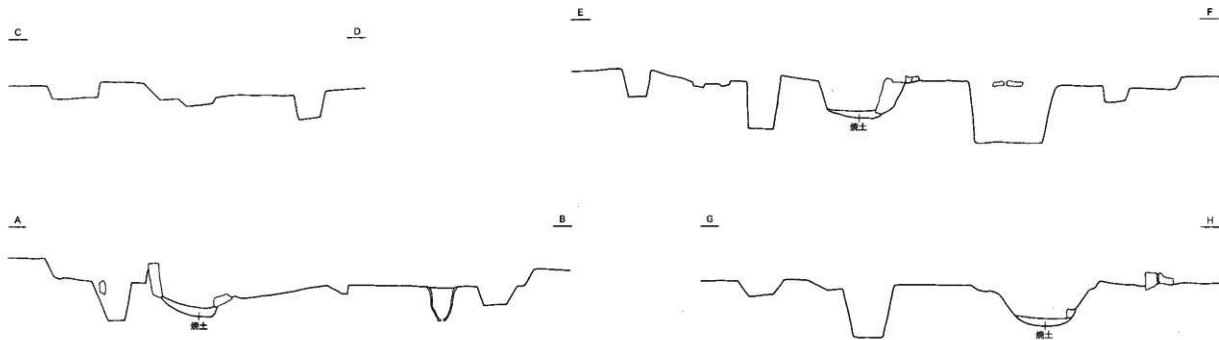
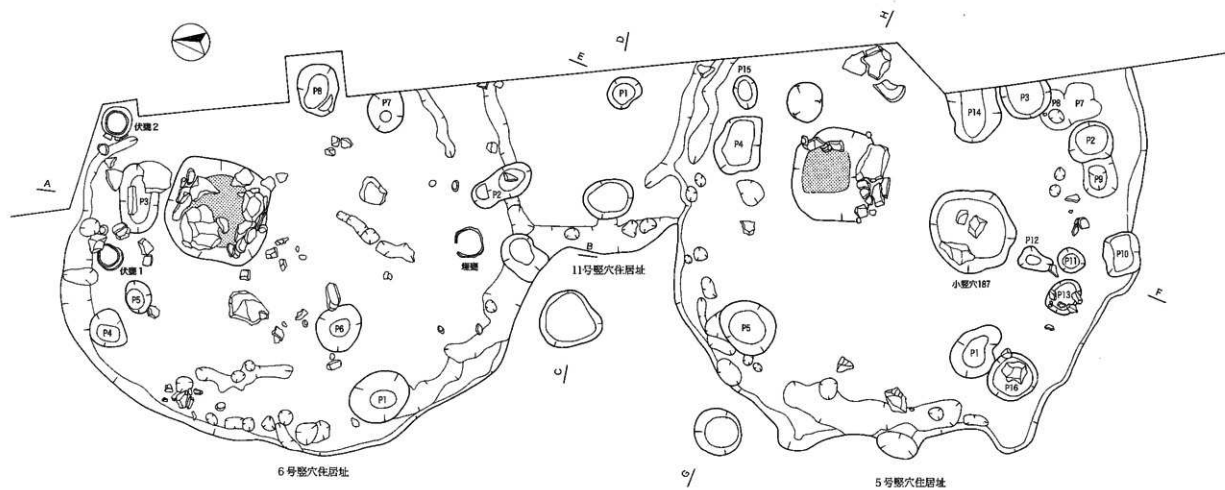
面的調査を行ったB V51~53、B W-49~54、B X-49~54、B Y-49~52、C A-49・50グリッドで検出したが、5・6・11号住居址は用地の関係で未調査部分を残す上に、5・6・9・11・12号住居址は複雑な重複関係にある。黒土中に構築されていた9号住居址は、焼土とピットのあり方から住居址を考えたものであり、12号住居址は5号住居址に大きく切られ残存した範囲が狭く認定が遅れて不明な点が多い。

重複による新旧関係は、5・9・11・12号住居址は5号住居址が新しく、6・9・11号住居址は6号住居址が新しく、9号と11号住居址、9号と12号住居址においては不明である。

#### 第5号竪穴住居址（第4~8図、写真5、6）

埋土は、東西方向の土層観察ベルトと、調査境の掘り込み面で観察した。ローム粒と僅かな炭化物が混じる褐色土で、逆三角堆土部分がやや黒味を増すが分層できる状態ではない。基本的にはレンズ状の堆積で自然埋没と考えたい。

平面形は、用地の関係で未調査部分を残しているが径5m程の円形と思われる。壁は、ロームである

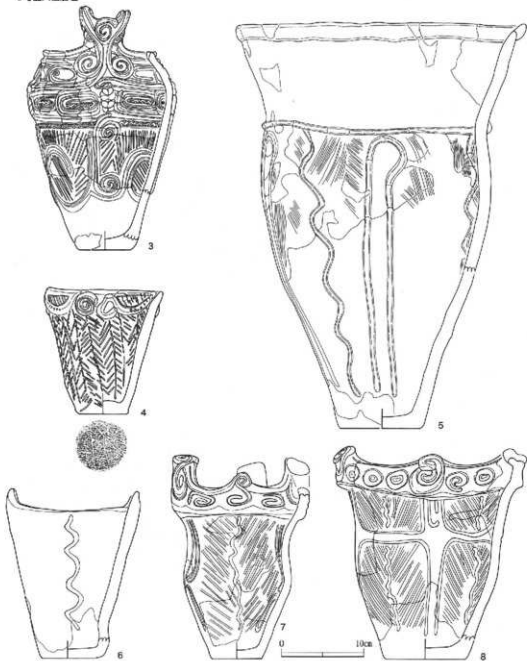


第4图 第5·6·11号整穴住居址平面图 (1:40)

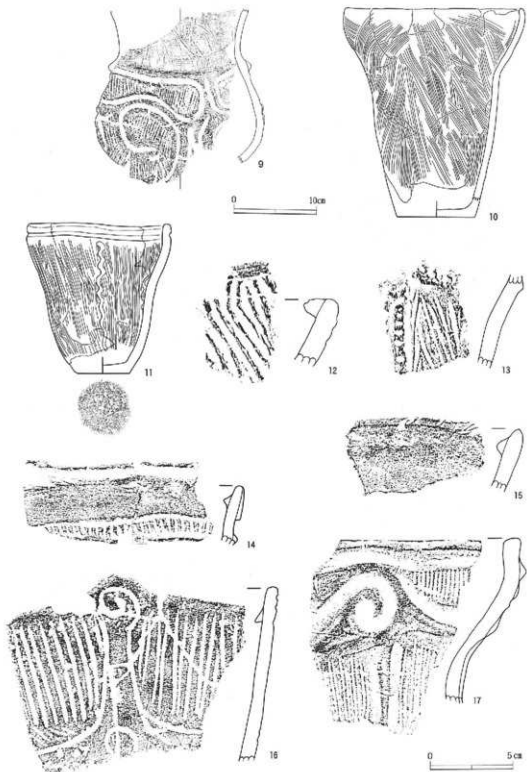
2号整穴住居址



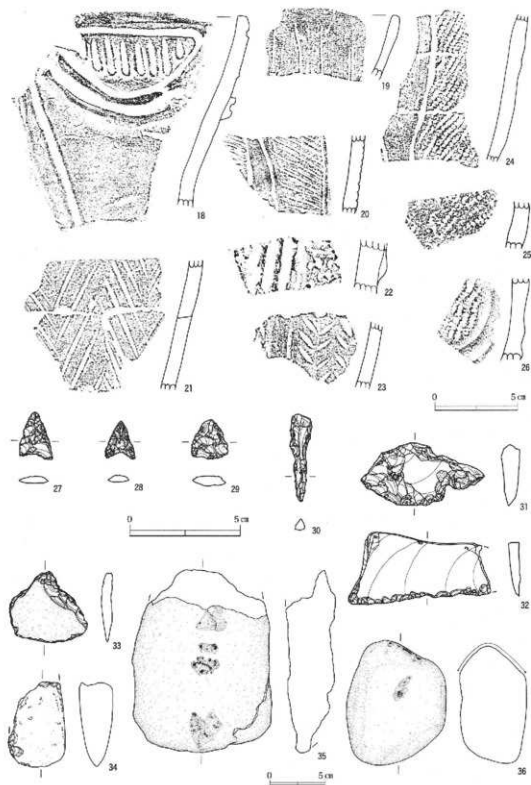
5号整穴住居址



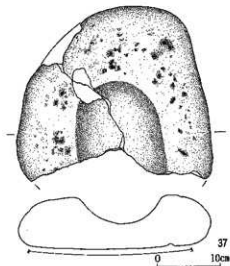
第5图 第2·5号整穴住居址出土土器实测图、土器拓影 1·2 (1:2) 3~8 (1:4)



第6图 第5号窑穴住居址出土土器实测图、土器拓影 9~11 (1:4) 12~17 (1:2)



第7图 第5号竖穴住居址出土石器拓影、石器实测图 18~26 (1:2) 27~32 (2:3) 33~36 (1:3)



第8図 第5号竪穴住居出土石器実測図(1:6)

が緩やかに立ち上がり良く無い。床面はロームで硬く、総体に小さな凸凹がみられるが壁際がやや高くなるがほぼ平らである。周溝は部分的に認められる。柱穴は楕円形を呈し深くしっかりしたものである。炉は方形切り矩建状石囲炉と思われるが、炉石はすでに焚き口の一部を残し抜き取られていた。焚き口の左隅に使われていた炉石を図示することはできなかったが、安山岩の柱状自然石で有頭石棒を思わせるものがあり、祭祀の様相が高いと考えておきたい。炉底の焼土は厚く9cmを計りその下層も火熱による変色が認められる。

遺物は土器と石器があり、土器は第5図3～第7図26である。石器は第7図27～第8図37で、31の石匙は周溝内から出土。37の石皿は離れた地点から出土し接合したものである。

#### 第6号竪穴住居(第4・9～12図、写真7～11)

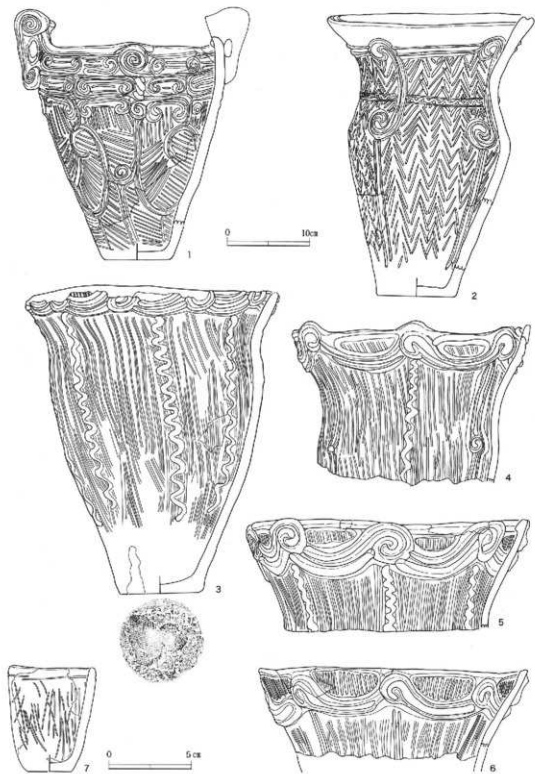
埋土は、東西方向の土層観察ベルトと、調査坑の掘り込み面で観察した。壁際は壁土が落下したと思われるロームブロックが、総体的にはローム粒と僅かな炭化物の混じる褐色土で、逆三角堆土部分はやや黒味は増すが分層できる状態ではない。基本的にはレンズ状の堆積であり自然埋没と考えたい。逆三角堆土中には黒曜石の小剥片が多くみられ、炭化種子が出土している。

平面形は、用地の関係で未調査部分を残しているが長軸5m、短軸(3.7m)の楕円形を呈するものと思われる。壁は、ロームであるが壁土が落下したようで良くない。周溝は部分的にみられ小ピットの並ぶ所もある。柱穴は深くしっかりしたものであるが、貼り床の施されたものがあり同心円状の建て直しが行われているようである。煙竈は、南壁際に深鉢が正位で埋設されていたが、主軸線上からやや東にずれ口縁部は床と同レベルであるが蓋石はい。底部は打抜かれた状態で穿孔されており、口縁部の磨滅は著しく擬口縁部を思わせる状態である。伏壺は2点あるが、胴部下半を欠損する深鉢を使用したもので、炉の側延長線上より外側による北壁下にある。炉は方形切り矩建状石囲炉と思われるが、炉石はすでに抜き取られ焚き口の一部を残していただけである。図示することはできなかったが、焚き口右隅に立てられていた安山岩の柱状自然石の上面は、打痕による蜂の巣状の浅い凹みが見られる。炉底の焼土は厚く10cmを計りその下層も火熱による変色がみられる。焚き口の右隅に使われていた炉石を図示することはできなかったが、安山岩の柱状自然石で上面にやや弱い蜂の巣状に打痕が見られる。

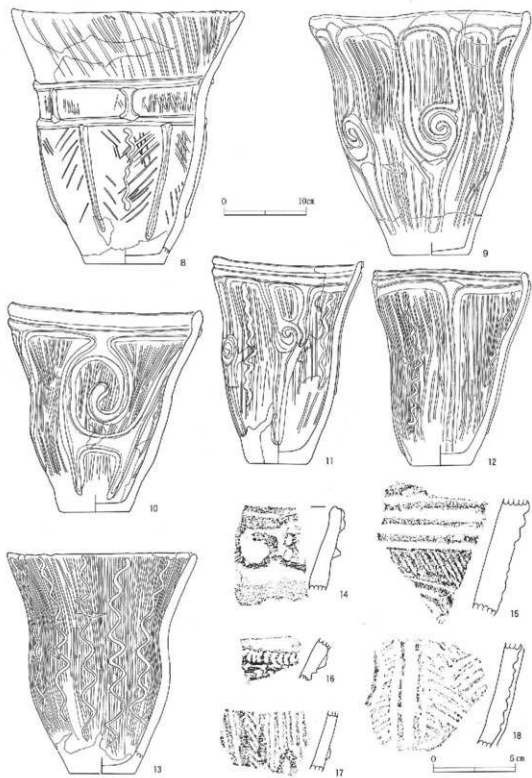
遺物は土器・石器・炭化種子がある。土器は第9図1～第11図25で、3は埋壺、5は伏壺1、6は伏壺2である。7はミニチュア土器で壁際から出土。石器は第11図26～第12図60である。第22図44・45の土器破片は混入であろう。

炭化種子は4点で、小豆よりやや大きな物である。

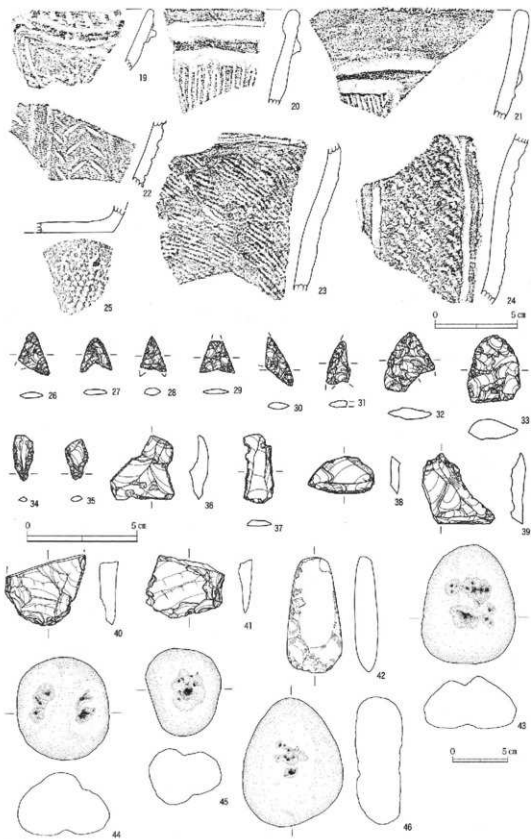




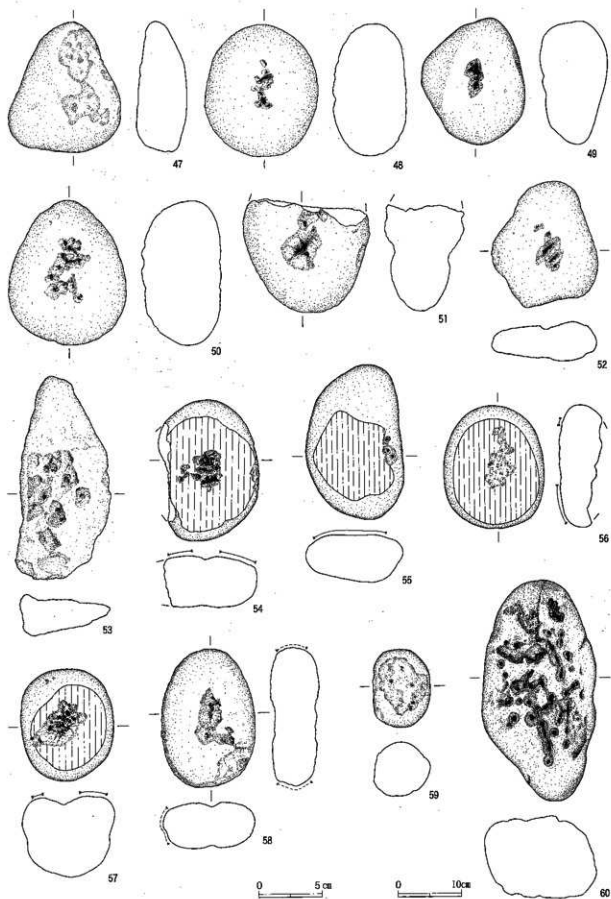
第9图 第6号窑穴住居址出土土器实测图 1~6 (1:4) 7 (1:2)



第10图 第6号聚穴住居址出土土器实测图、土器拓影 8~13 (1:4) 14~18 (1:2)



第11图 第6号竖穴伴冢址出土石器拓影、石器素描图 19~25 (1:2) 26~39 (2:3) 40~46 (1:3)



第12图 第6号型穴住居址出土石器实测图 47~59 (1:3) 60 (1:6)

#### 第9号住居址（第16図）

黒色土中に構築された住居址である。焼土が黒色土中から出土し、炉石がないことから単独の焼土址と考え、また、後に柱穴に改めた小竪穴の調査過程で住居址と考えたが、炉底の焼土が調査面より上位にあり、住居址の壁や床面などを確認することはできなかった。

本址に伴うピットはP1～P6の6基あり、P2は他のピットより径がやや大きく、底面には大きな安山岩の礫2点があり柱穴とは違うようである。P5から土器破片が出土している。

遺物は土器と石器があり、土器は第16図11で、石器は12・13である。

#### 第11号竪穴住居址（第16図）

5号・6号住居址に切られている上に用地の関係で調査できた範囲は狭く詳しいことは不明である。

埋土は、調査境の掘り込み面で観察したが、ローム粒と僅かな炭化物が混じる褐色土で、色調の変化に乏しい。

平面形は、用地の関係で未調査部分を多く残している上に、5号・6号住居址との重複で残存範囲は僅かであるが、壁と周溝からみて円形ないしはそれに近いものと思われる。規模については不明である。

壁は、ロームであるが良く無い。床面はロームでほぼ平らであるが軟弱で小さな凸凹がみられる。周溝は壁下と6号住居址床面部分では認められたが、5号住居址は本址より床面レベルが低いため確認することはできなかった。柱穴は深くしっかりしたものである。炉は未調査部にあるものと思われる。

遺物は土器があり、第16図18である。

#### 第12号住居址

黒色土中に構築された住居址である。5号住居址の床面から小竪穴187に切られた焼土が出土し、同心円状建て直しが行われた旧い炉址と考え調査を進めたが、柱穴の中には貼床が施されたものがあり、平面形は楕円形と円形の2者で埋土にも違いがみられた。この時点になり焼土と平面円形の柱穴を12号住居址と考えるに至ったが、認定が遅くなり不明な点を残したままである。

平面形・規模は不明で、重複から外れた柱穴は小竪穴と考え調査を進めた状態であり、壁や床面などを観察することはできなかった。

P1から安山岩の小礫48点が出土したが性格は不明である。

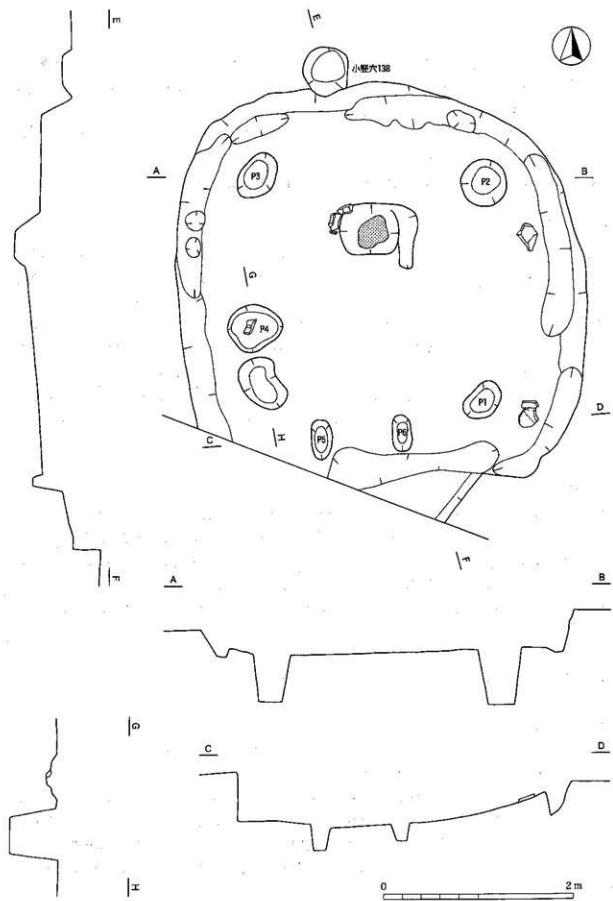
本址に伴う遺物は明確にできなかった。

#### 第7号竪穴住居址（第13～15図、写真12、13）

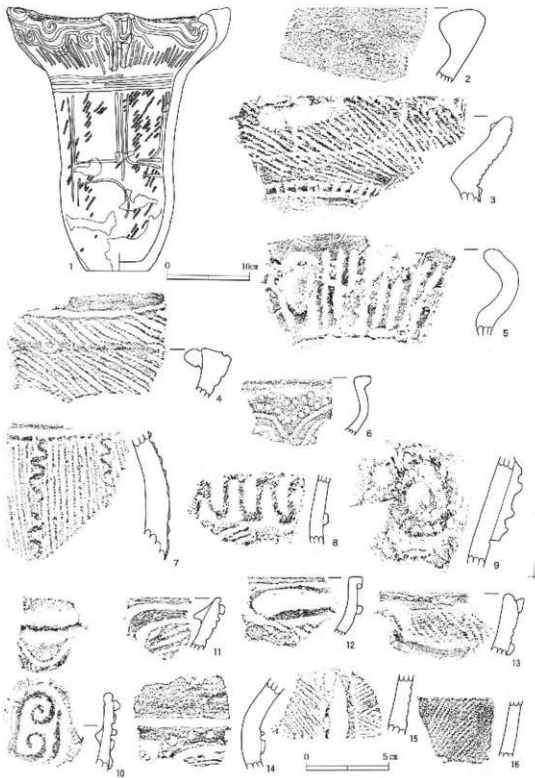
検出した住居址の中では西端に位置する。BE-45～47、BF-45～47、BG-45～47の9グリッドにまたがり、用地の関係で未調査部分が僅かにある。

埋土は、検出時における平面観察では4回以上におよぶ攪乱穴があり、土層観察では床面にまで達しており最悪の状態であった。調査を進めた過程において、ローム粒が混じる褐色土（三角堆土）形成後に、厚い焼土が生じたことが見てとれた。攪乱が広範囲におよぶ上に炉址に達する深いもので不明な点も多いが、焼土は住居南寄に厚く形成され、焼土はP1とP4の上位に確実にあり、焼土が生じた時にはすでに柱が無かったことになる。

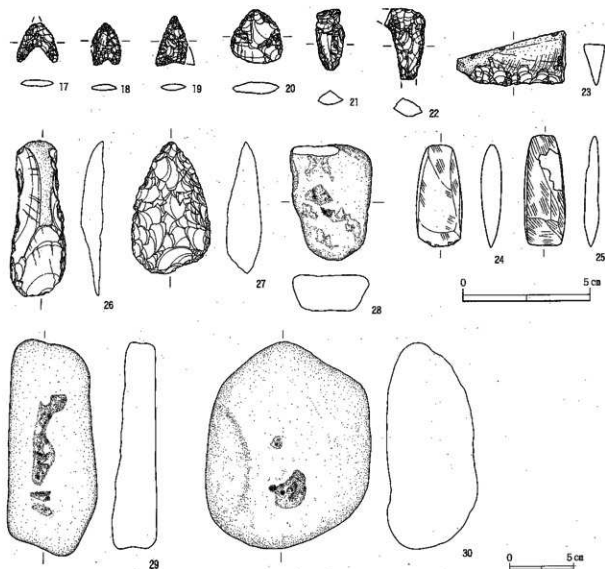
平面形は、4.3×4.35mの隅丸方形である。壁は、ロームで床面から10～20cm位はほぼ垂直に立ち上がるが、その上は壁土が落下したためになだらかなる。周溝は、壁直下にめぐることが部分的に切れている。



第13图 第7号窑穴住居址实测图 (1:40)



第14图 第7号型穴住居址出土土器实测图、土器拓影 1(1:4) 2~16(1:2)



第15図 第7号竪穴住居址出土石器実測図 17~25 (2:3) 26~30 (1:3)

床面は、ロームであるが総体的に軟弱でタキキ床はみられない。なお、攪乱穴による破壊もみられた。南壁近くの床面が部分的に焼土化しているが、地床炉とは異なるものであり、埋土中で見られた多量の焼土との係りを考えたい。柱穴は、P1~P4の4本でしっかりしている。P5・P6はその位置から入り口に係るものであろう。炉石は抜かれていたが、掘り方からみて方形切り矩罐状石囲炉であったものと思われる。なお、石が抜かれたのは廃絶時であるのか、攪乱穴の折か不明である。

遺物は土器と石器があり、土器は第14図I~16で、石器は第15図17~30である。第22図39~43・50の土器破片は混入であろう。

#### 第8号住居址 (第16図、写真14、15)

面的調査を行ったBL-48・49、BM-48~50、BN-48~50、BO-48~50グリッドで検出したが、黒色土中に構築された住居址である。

黒色土中で蓋石を持つ正位の埋甕が出土し、住居址の検出に動めたが床面などを確認するまでに至らず、不明瞭なまま単独埋甕1と考えた。また、弱い焼土も黒色土中で認められたが、炉石がないことから単独の焼土址と考え、後に柱穴に改めた小竪穴の調査過程で住居址と考えるに至るが、すでに炉底の



焼土が調査面より上位にあり、住居址の壁や床面などを確認することはできなかった。柱穴は大きなしっかりしたものが4本で、いずれも重複がみられ同心円状の建て直しが考えられる。焼土の厚さは4cmを計りその下層も火熱で変色している。第20図1は屋外埋堊と考えたが、推定プランの東壁付近に位置し、本址の埋堊の可能性を捨て切ることはできない。

遺物は土器があり、第16図1～3である。

#### 第10号住居址（第16図）

面的調査を行ったB P-47～49、B Q-47～49、B R-47～49グリッドで検出したが、黒色土中に構築された住居址である。

焼土が黒色土中で出土したが、炉石がないことから単独の焼土址2と考えた。その後、やや浅いが柱穴状ピットの検出があり、8号・9号住居址同様に住居址と考えたが、すでに炉底の焼土が調査面より上位にあり、住居址の壁や床面などを確認することはできなかった。推定プラン内で新旧関係は不明であるが墓塚と考えられる小堅穴95・96・99の3基と重複している。

遺物は土器と石器があり、土器は第16図14～16で、石器は17である。

## 2 小堅穴

小堅穴は173基検出したがほぼ発見順に13～187の番号を付した。調査過程で69・70はロームマウンドであることが明らかになり欠番とした。

個々の小堅穴については「小堅穴一覧表」にその概要をまとめたが、特徴的な小堅穴について若干触れておきたい。

#### 小堅穴14・15・16・17・19（第17図、写真17、18）

陥穴と考えた小堅穴5基である。平面形は円形で、ローム層にしっかり掘り込まれていたが、規模に違いがみられる。底面は平らで壁はほぼ垂直に立ち上がるが、壁面の上半分位は荒れており壁土の崩落が考えられる状態であり、長時間にわたる開口を示唆するものである。遺茂木の小ピットは検出できなかった。遺物は、小堅穴14から中期中葉、小堅穴15・17から中期後葉の土器破片が出土しているが、埋土中からの発見であり時期決定ができるものではない。

#### 小堅穴13・21・132（第17・20・21図、写真19、20）

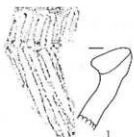
浅い小堅穴であるが、小堅穴13から第20図8の土器片使用の土製円盤、小堅穴21は検出面からその下層に第21図12の土器破片が、小堅穴132の底面には浅鉢第21図22の破片（約1/5）が埋納されていた。

#### 小堅穴35・58・73・75・82・89～91・93～96・98・99・103・187（第17・18・21図、写真21～24）

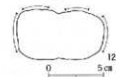
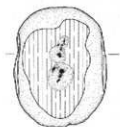
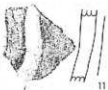
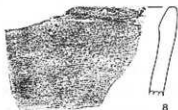
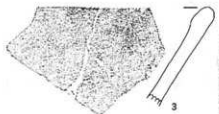
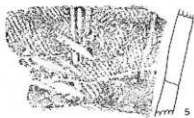
墓塚と考えた小堅穴は16基で、平面形は円形・楕円形・隅丸方形・隅丸長方形など様々であるが、ローム層をしっかりと掘り込んだ深いものばかりで、検出面に大きな礫が伴うものがある。底面は平らで壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁面はしっかりしており壁土の崩落は認められない。

小堅穴35は用地の関係で未調査部分を残しているが、検出面には大きな礫があり、底面から琥珀と翡翠の飾玉第21図23・24が並んで出土した。副葬品と考えられるもので墓塚と考えたが、類似する15基の小堅穴を第19図に示した。

8号住层址



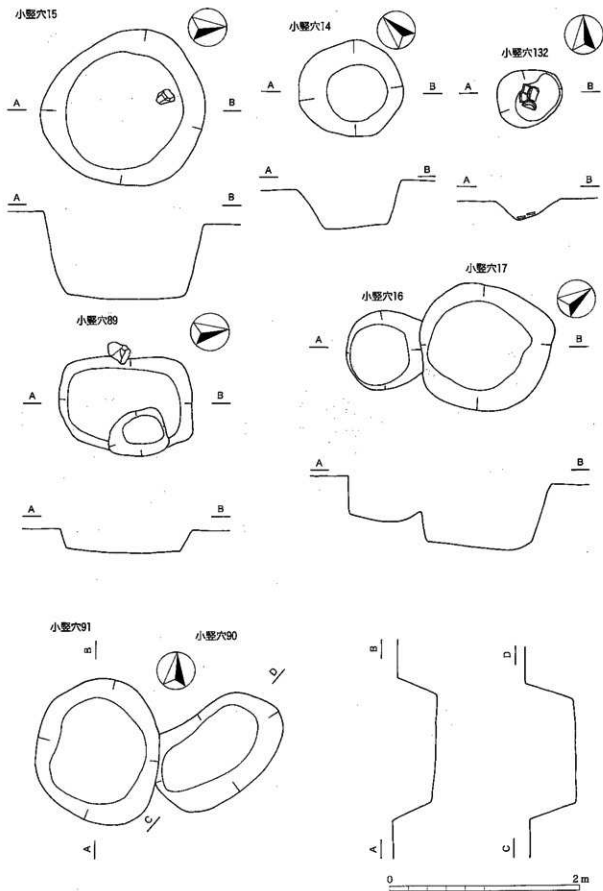
9号住层址



10号住层址

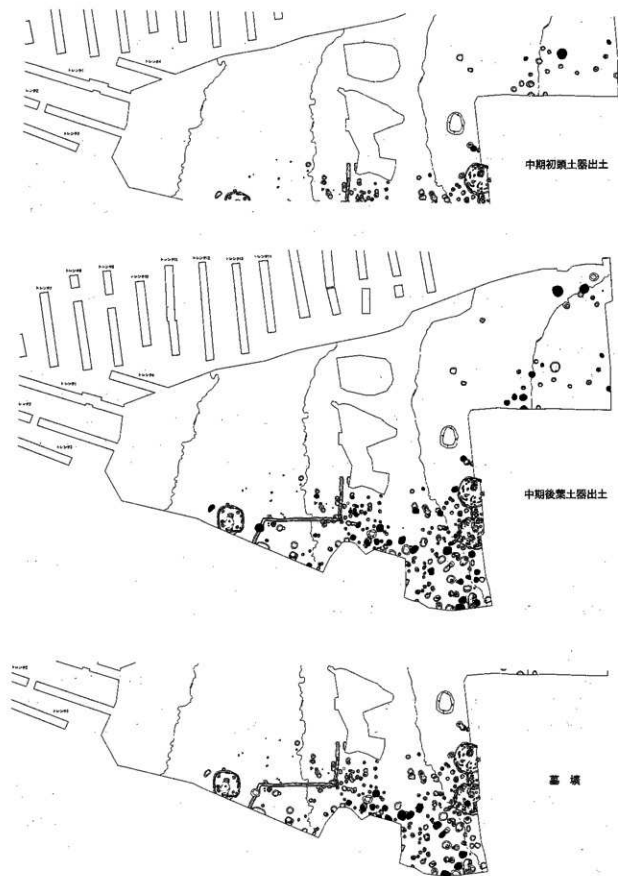
11号整穴住层址

第16图 第8·9·10·11号住层址出土土器拓影、石器夹测图  
1~11·14~16·18 (1:2) 12·13 (1:3) 17 (2:3)



第17图 小整穴15·14·132·16·17·89·90·91实测图 (1:40)





第19圖 小堅穴傾向圖

#### 小竪穴37・137（第18・21図、写真25）

柱穴状の小竪穴であり、小竪穴37は深さ107cm、小竪穴137は深さ110cmを計る。底面は平らで壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁面はしっかりしており壁土の崩落は認められない。

#### 小竪穴38（第18・21図、写真26～28）

平面形は151×124cmの円形で、深さは95cmを計る。底面は平らで壁はほぼ垂直にたちあがるが、壁面は荒れており壁土の崩落が考えられる状態であり、長時間にわたる開口を示唆するものである。底面から角が取れた小さな河原石407点が出土したが、全面からの出土ではなく、壁際はリング状に隙の無い箇所が巡る。河原石は積み上げられた状態ではなく、重なるものは少なく上面はほぼ平らである。このような河原石を伴う小竪穴の発見は聞いたことはなく性格については不明である。

#### 小竪穴101

浅い小竪穴で、第21図21の縄文時代後期の土器小破片が出土したが、後期土器はこの1点だけである。

#### 小竪穴出土遺物

遺物は土器・石器・土製品・石製品があるが、土器は確実に時期決定ができる状態で出土したものは極めて少ない。大きくみて縄文時代中期初頭～中葉、後葉で、土器破片が出土した小竪穴を第19図に示したが、出土地点は時期により異なる傾向が見てとれる。石器は第21図11・13～15・17・18・20であり、当地方に一般的にみられるものである。土製品は小竪穴13から出土した第20図8の土器片利用の土製円盤だけである。石製品は小竪穴35から出土した第21図23の琥珀製垂飾と24の翡翠製垂飾である。

### 3 焼土址

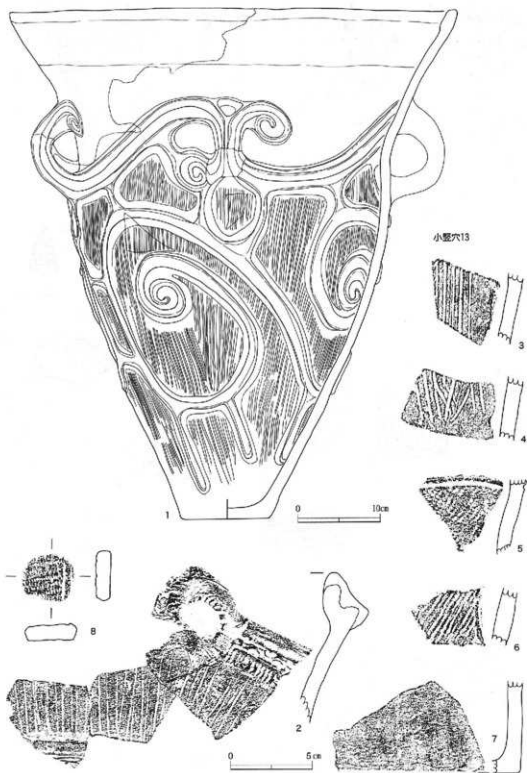
黒土中で検出した焼土は5ヶ所を数え、焼土1～5の番号を付したが、焼土2が10号住居址、焼土4が8号住居址、焼土5が9号住居址の炉址である事が判明した。したがって単独の焼址は、焼土1と焼土3の2ヶ所である。図示することはできなかったが概略を記しておきたい。

#### 焼土1（第21図）

平面形は271×196cmの楕円形で、厚さ20cmを計る大規模なものであるが、表土剥ぎ遺構検出ですでに上面を取り除いたため、当初の厚さは30cm前後であったと思われる。遺物は、付近と焼土中から縄文時代中期後葉の土器破片（150点）と石器が出土している。土器は第21図25、石器は27・28などである。

#### 焼土3

平面形は52×31cmの楕円形で厚さ8cm程であるが、下層で安山岩の礫2点を伴うピットを検出した。焼土3に係る施設であるのか、重複する別遺構であるのか明確にできなかったが、ピットの平面形は72×92cmの楕円形で、深さは20cmと浅いものである。遺物は、縄文時代中期後葉の土器破片が僅かに出土している。



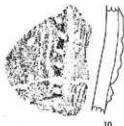
第20图 小壑穴13出土土器拓影・土製品実測图、道槽外出土土器実測图 1 (1:4) 2~8 (1:2)

小整穴14



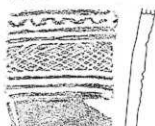
9

小整穴18



10

小整穴21



12

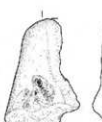
小整穴35



小整穴37



14



15

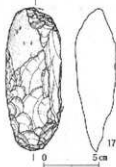
小整穴73



18



13



1 0 5 cm

小整穴77



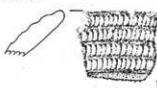
19

小整穴90



20

小整穴38



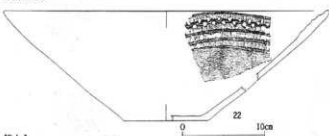
16

小整穴101



21

小整穴132



0 10 cm

小整穴135



23

黄土1



0 5 cm

25



26



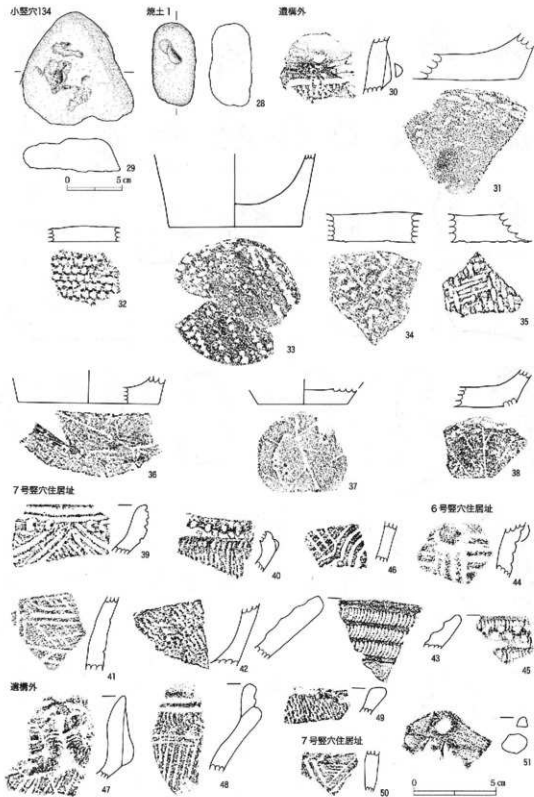
27



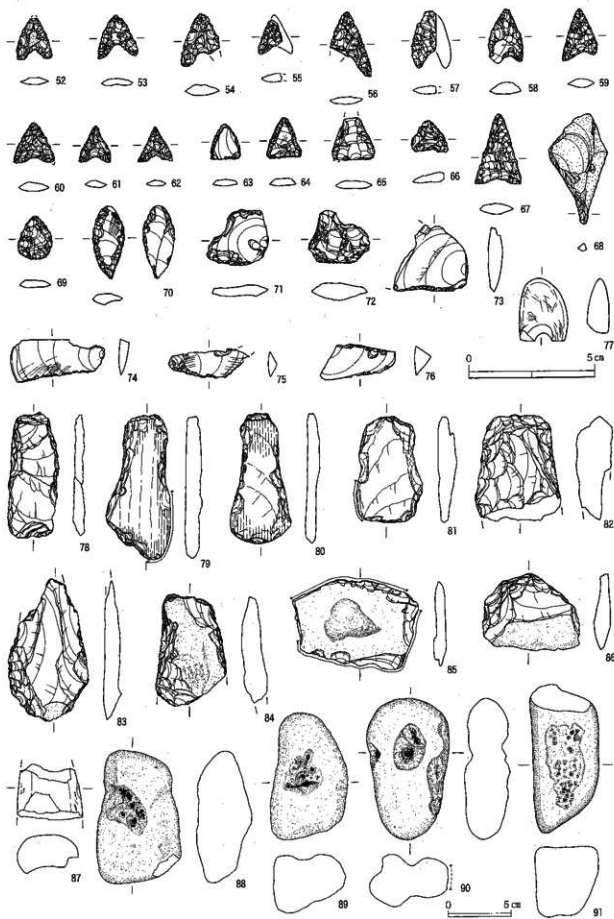
24

第21图 小整穴14·18·21·35·38·73·77·90·101·132·135·黄土1 出土石器实照图、石器拓影、石器实照图  
9·10·12·16·19·21·25·26 (1:2) 22 (1:4) 11·13~15·17 (1:3) 18·20·23·24·27 (2:3)

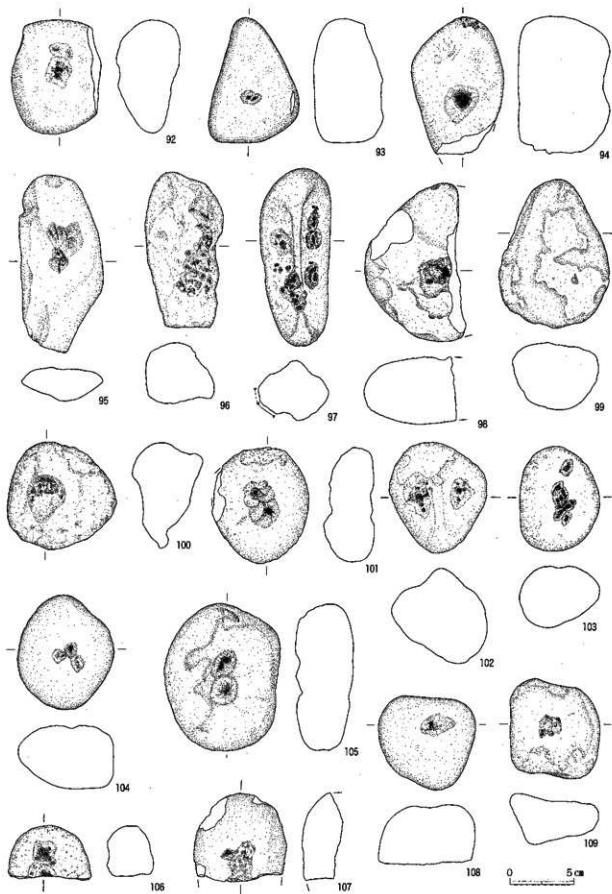




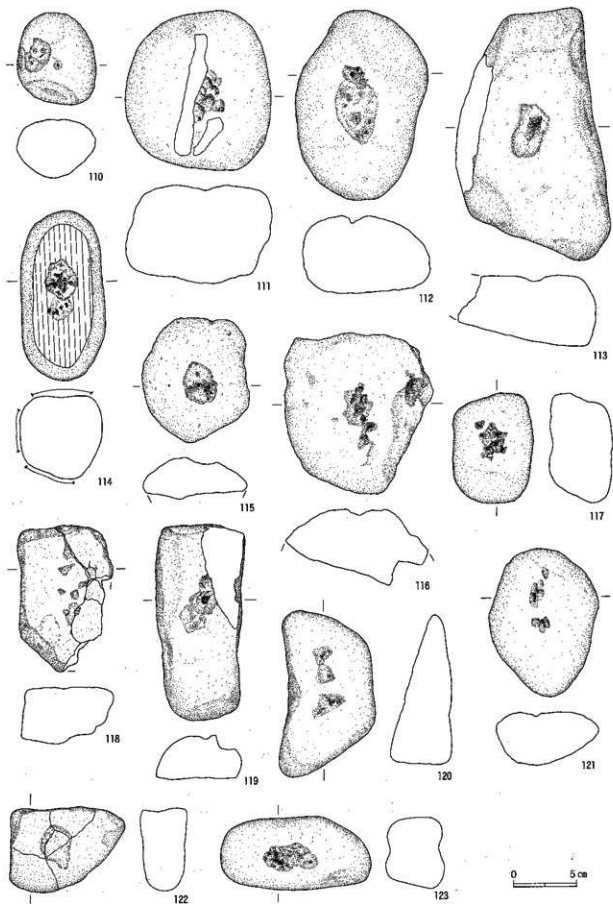
第22图 第6·7号整穴住居址·小整穴134·埴土1·遺構外出土土器実測図、土器拓影、石器実測図  
28·29 (1:3) 30~51 (1:2)



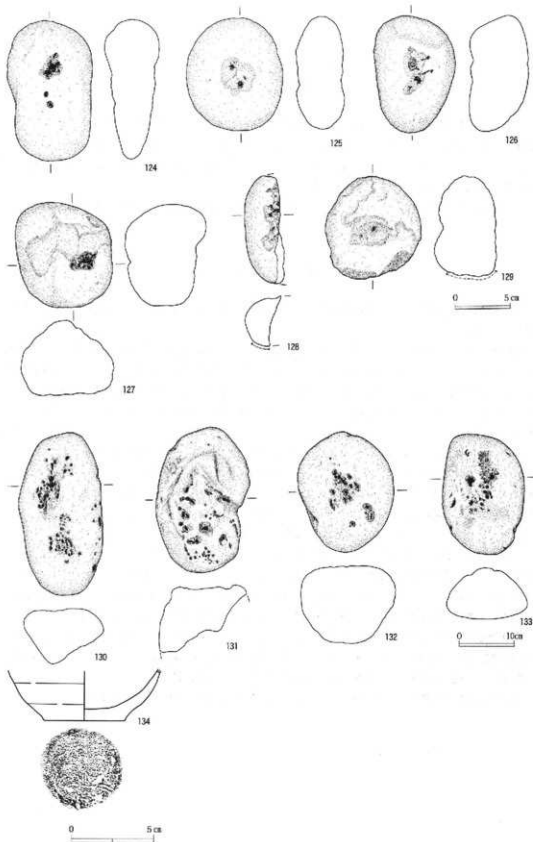
第23图 遼構外出土石器实测图 52~77 (2 : 3) 78~91 (1 : 3)



第24图 遗物外出土石器实测图 (1:3)



第25图 遼陽外出土石器实测图 (1 : 3)



第26图 遺構外出土石器実測図、土師器実測図 124~129 (1:3) 130~133 (1:6) 134 (1:2)

## 4 遺構外出土遺物

遺構外から縄文時代の遺物は土器・石器・石製品が出土している。調査では、黒土中に構築された住居址の認定が遅くなり、グリッド遺物の中に住居址に伴うと思われるものもあるが、確実な伴出関係が明らかにできないためここで取り上げてある。土器は第22図30～38・46～49・51、石器は第23図52～76・78～133、石製品は第23図77を图示した。

平安時代の土師器坏第26図134と小破片が出土しているが、遺構を検出するまでには至らなかった。

## V まとめ

発見した遺構・遺物ともに整理期間の関係で分析することができなかったため、現場で感じたことを記しまとめとした。

久保地尾根遺跡の発掘調査は9次を数えるが、外縁部における調査が多く遺跡の性格等については未だ不明瞭なままであり、本調査地点は村道改良事業に先立つ発掘調査の成果からみて、集落址の北辺部にあたることは容易に推測できた。調査の結果、集落址は当初考えていたより東に寄り、既存墓地に展開していることが明らかになり、調査されることがないまま開発された範囲の広いことを再認識させられることになった。

縄文時代中期の住居址4軒は黒土中に構築されていたが、当地方で黒土中に住居址が構築されることは稀なことであり、ローム層にしっかり掘り込んでいる住居址とは性格が違っているように思われた。原村の前尾根遺跡第1次発掘調査でも黒土中から住居址が検出され、その報告に「この住居址は永住を目的としない一時的な住居として構築されたのではないかと推測される。」とあるが、本遺跡の住居址も同様で仮住まい的なものであったことが窺われるものである。

墓壇と考えた小堅穴は16基で、概ね円形に展開していることが見て取れるもので、住居址の内側に墓壇がめぐる環状集落が形成されていることは確かなようである。しかし、居住域のありかたは他遺跡と若干違っているようにみうけられた。当地における尾根幅はそれほど広いものはなく、集落址は南斜面を含めた尾根の全域を居住域としおり、中には緩やかな北斜面に住居址が構築されていることがある。

久保地尾根の尾根幅は当地では一般的であるが、居住域（集落址）は尾根全域に展開することはなく北側に幅20mを越す無住居址地がみられる。この居住域は何に起源するのか不明であるが、住居址北側に検出した大規模な焼土址1との係りがあるように思えてくるのである。

最後に、関係者各位ならびに発掘調査にたずさわった方々に厚くお礼申し上げる次第である。

表2 小堅穴一覧表

( ) 付は観存値、単位はcm

番号	検出位置	平面形	規 模			①埋土 ②遺物等の出土状態 ③土器 ④石器 ⑤性格等
			長径	短径	深さ	
13	CF-66他	楕円形	73	58	21	①レンズ状堆積 三角堆土と底面近くはローム細粒を含む褐色土、逆三角堆土は僅かな炭化物の細粒を含む褐色土 ②検出面とその直下に土器片と小礫、落ち込んだもの ③中期土器片24(第20図2~7) 土器片利用土製円盤1(第20図8) ⑤底面に小ビット1、
14	CB-69	円形	111	104	46	①レンズ状堆積 三角堆土と底面近くはローム細粒を含む黄褐色土、逆三角堆土は黒褐色土 ②逆三角堆土下部に土器片 ③中期土器片3(第21図9・10) ⑤陥し穴
15	CA-70	円形	173	160	80	①レンズ状堆積 三角堆土と底面近くはロームブロック・ローム粒を含む黄褐色土、逆三角堆土はローム細粒を含む黒褐色土 ②検出面と逆三角堆土に土器片、逆三角堆土に小礫1、底面に礫1 ③中期土器片11 ④黒曜石剥片1 ⑤陥し穴
16	CC-70	円形	(92)	(83)	44	①西側からの流入堆積か 上層は僅かなローム粒・炭化物を含む褐色土、下層はローム粒と僅かな炭化物を含む黄褐色土、底面近くはローム粒が多くなる。 ⑤小堅穴17と重複、本址が古い 陥し穴
17	CC-71他	円形	143	132	74	①レンズ状堆積 三角堆土と底面近くはローム粒を含む褐色土、逆三角堆土は僅かなローム粒・炭化物を含む褐色土 ②逆三角堆土下部に掘り拳大の安山岩の礫 ③中期土器片1 ④黒曜石剥片1 ⑤小堅穴16と重複、本址が新しい 陥し穴
18	CF-65他	円形	72	62	27	①レンズ状堆積 逆三角堆土はローム細粒と炭化物を含む褐色土 三角堆土の壁際と底面近くはローム粒を多く含む褐色土 ②検出面で打製石斧1(第21図11)
19	CC-72 CD-72	円形	144	123	91	①レンズ状堆積 三角堆土と底面近くはロームブロック・ローム粒を含む黄褐色土、逆三角堆土はローム粒を含む黒褐色土 ②逆三角堆土に安山岩の礫 ⑤ロームマウンド1と重複本址が新しい 陥し穴
20	CD-70	円形	62	54	20	①不安定な褐色土単層 ⑤不明瞭で耕作による攪乱の可能性が高い ④黒曜石剥片2
21	CB-64他	円形	163	151	11	①ローム粒を含む黒褐色土で、壁際はローム粒が多い ②検出面に土器片 ③中期土器片8(第21図12) ④黒曜石剥片1 ⑤底面に小ビット2、
22	CD-63	楕円形	65	50	12	①ローム粒を含む黒褐色土単層 ⑤攪乱か
23	CA-63他	円形	98	90	41	①ローム粒と炭化物を含む褐色土で、壁際はローム粒が多い ②底面近くから土器片・黒曜石剥片・小礫 ③中期土器片2 ④黒曜石剥片6
24	CB-61他	楕円形	(70)	(65)	4	①ローム細粒を含む黒褐色土単層 ⑤未調査部有
25	BY-61他	円形	117	100	37	①ローム粒と炭化物を含む黒褐色土単層 ③中期土器片14 ⑤壁面に小ビット1、
26	CA-64他	楕円形	71	63	15	⑤底面に小ビット1、
27	CA-61他	楕円形	(112)	(52)	30	①ローム細粒を含む黒褐色土単層 ③中期土器片5 ④黒曜石剥片1 ⑤未調査部有

28	BU-67他					①ローム細粒を含む黒褐色土で下層ほど黒味が増す ⑤耕作による可能性が高い
29	BT-62他	不整形円形	112	95	17	①レンズ状堆積 三角堆土の底面近くはローム細粒を含む褐色土、逆三角堆土は黒色土 ②堀土中に安山岩小礫 ③横刃形石器? 1、黒曜石剥片 2
30	BU-61他	楕円形	82	58	13	①炭化物を含む黒褐色土で安定していない。⑤耕作による攪乱か
31	CB-45他	円形	97	91	31	①レンズ状堆積 三角堆土と底面近くはロームブロック・ローム粒を含む黄褐色土、逆三角堆土はローム細粒と炭化物を含む褐色土 ②検出面に礫 1 ③中期土器片 6 ④黒曜石剥片 8 ⑤底面は舟底状 未調査部有 小堅穴186と重複新旧不明
32	BY-45	楕円形	99	67	42	①親指大の炭化物を含む褐色土単層 ②検出面に礫 2、また重複個所に礫 1 ④黒曜石剥片 1 ⑤小堅穴34と重複新旧不明
33	BX-46他	楕円形	147	122	19	①レンズ状堆積 三角堆土はローム細粒を多く含む褐色土、逆三角堆土はローム粒と炭化物を含む黒褐色土 ④黒曜石剥片 2 ⑤底面に小ピット 2
34	BY-45他	不整形円形	92	80	42	①褐色土単層 ②重複個所に礫 ④黒曜石剥片 1 ⑤底面・壁面に小ピット 3 小堅穴32と重複新旧不明
35	BY-44他	楕円形	158	88	61	①ロームブロック・ローム粒を含む褐色土 ②底面から翡翠と琥珀の玉が各 1、並んだ状態で出土 ④翡翠垂飾 1 (第21図24)、琥珀垂飾 1 (第21図23)、凹石 1 (第21図13)、黒曜石剥片 3 ⑤検出面に礫 (立石?) 1・小礫 3 未調査部有
36	BX-44	楕円形	(111)	(85)	29	①ローム細粒を含む褐色土単層 ④黒曜石剥片 1 ⑤北壁のピットは新しい可能性が高い 未調査部有
37	BY-46他	円形	90	88	107	①レンズ状堆積 逆三角堆土はローム細粒を含む褐色土 三角堆土の壁際と底面近くはローム粒を多く含む黄褐色土 ③中期土器片 1 ④打製石斧 1 (第21図14) 凹石 1 (15) 黒曜石剥片 3 ⑤検出面に礫 1 底面は凸凹が著しく不明瞭
38	BW-48他	円形	151	124	95	③中期土器片43 (第21図16) (内同一個体 8)、④打製石斧 1 (第21図17) 黒曜石剥片 9
39	BV-50	円形	(83)	(75)	34	①ローム粒と僅かな炭化物を含む不安定な黄褐色土単層 ②堀土中に小礫 1 ⑤小堅穴40と重複、新旧不明
40	BV-50	楕円形	(83)	(60)	31	①ローム細粒と僅かな炭化物を含む褐色土で、壁際はローム細粒が多い ⑤小堅穴39と重複、新旧不明
41	BV-52	楕円形	(61)	(53)	23	①ローム粒を含む褐色土単層 ⑤9号住居址ピット
42	BV-52他	円形	(48)	(40)	21	①ローム粒を含む褐色土単層 ⑤9号住居址ピット
43	BV-51	不整形円形	(91)	(90)	5	②検出面に小礫 2 ③中期土器片 6 ④磨石 (半割) 1 ⑤小堅穴44と重複、新旧不明 耕作の攪乱か
44	BV-51他	楕円形	(85)	(75)	13	⑤小堅穴43と重複、新旧不明 耕作の攪乱か
45	BL-45他	円形	113	105	10	①ローム細粒を含む不安定な褐色土単層 ⑤耕作の攪乱か
46	BM-48	楕円形	(76)	(55)	22	①ローム粒と炭化物を含む褐色土単層 ⑤8号住居址ピット
47	BI-45	円形	49	42	19	①ローム粒と炭化物を含む褐色土、底面近くはローム粒が多い ③中期土器片 1 ④黒曜石剥片 1
48	BM-44	隅丸方形	(76)	(54)	23	③中期土器片 1 ⑤未調査部有



49	B L-44他	隅丸方形	(115)	(121)	16	①ローム粒を含む褐色土単層 ⑤底面に小ビット3 未調査部有
50	B L-50他	楕円形	84	67	11	①褐色土単層 ②土器片1 ⑤底面に小ビット2 浅く不明瞭
51	B L-50	楕円形	75	62	13	①褐色土単層 ⑤底面に小ビット1 浅く不明瞭
52	B O-49	円形	44	40	16	①黒褐色土単層 ⑤底面に小ビット2
53	B V-53他	隅丸方形	114	86	63	①ローム粒を含むサラサラの真黒色土単層、検出面下20cmに空洞有 ⑤新しい可能性が高い ③中期土器片3
54	C B-47他	不整形円形	90	78	14	①ローム細粒含む黄褐色土単層 ⑤浅く不明瞭
55	C A-48他	不整形円形	92	83	14	①ローム粒を多く含む不安定な黄褐色土で、埋め戻された可能性が高い ③中期土器片2 ⑤底面は凸凹、攪乱か
56	C A-47他	楕円形	81	59	26	①ローム粒を多く含む不安定な黄褐色土単層 ③中期土器片1 ④黒曜石剥片1
57	B M-47他	楕円形	(62)	(57)	3	①ローム粒を含む褐色土単層 ⑤浅いすり鉢状、小堅穴145と重複新旧不明 ③中期土器片1
58	B P-47	円形	94	85	48	①ローム粒を含む褐色土で、盤際と底面近くはローム粒が多い ③中期土器片1 ④黒曜石剥片2
59	B O-48	楕円形	45	40	28	
60	B O-50	楕円形	(64)	(54)	36	③中期土器片1 ④黒曜石剥片3 ⑤小堅穴154と重複新旧不明
61	B N-49他	楕円形	75	55	25	④スレート剥片1、黒曜石剥片1 ⑤8号住居址ビット
62	B P-50	円形	50	45	21	③中期土器片2
63	B O-48	楕円形	(77)	(41)	19	⑤小堅穴64と重複新旧不明
64	B P-48	楕円形	(77)	(96)	15	③中期土器片2 ⑤小堅穴63と重複新旧不明
65	B O-50	楕円形	(65)	(42)	45	①ローム粒を含む褐色土単層 ③中期土器片4 ⑤小堅穴155と重複新旧不明
66	B O-49	不整形	(82)	(50)	21	①ローム粒と炭化物を含む褐色土で盤際はローム粒が多い ②検出面上5cm位に礫1 ③中期土器片4 ④凹石磨石1、黒曜石剥片1 ⑤小堅穴68と重複新旧不明
67	B O-49	円形	65	54	40	①ローム粒と炭化物を含む褐色土単層 ②検出面に礫、上10cm位に ③中期土器片5
68	B O-49	円形	(62)	(54)	54	①ローム粒と炭化物を含む褐色土単層 ③中期土器片4 ④黒曜石剥片3 ⑤小堅穴66と重複新旧不明
69	欠番					
70	欠番					
71	B W-45他	不整形	116	73	15	①三角堆土の盤際はローム粒と炭化物を含む黄褐色土、逆三角堆土はローム粒と炭化物を含む褐色土であるが不安定 ④黒曜石剥片3 ⑥北に接するビットの埋土は黒褐色土で異なる遺構である
72	B W-45	楕円形	85	58	29	①不安定な褐色土単層 ②検出面に礫 ④黒曜石剥片1 ⑤攪乱か
73	C A-46他	楕円形	133	100	26	①ローム粒(大きな物は径4cm)と炭化物を含む褐色土、ローム粒は上部に多い ④石鏝1(第21図18)、黒曜石剥片2
74	B W-50	楕円形	54	48	15	①炭化物を僅かに含む黄褐色土単層

75	B X-47他	楕円形	(126)	(72)	32	①ローム細粒を含む褐色土で、壁際はローム細粒が多い ②検出面に小礫2 ③小堅穴110と重複新旧不明
76	B W-55他	楕円形	(68)	(44)	13	①褐色土で、壁際はローム粒を含む ④黒曜石剥片1 ⑤底面から南壁にビット1 未調査部有 小堅穴77と重複新旧不明
77	B W-55他	円形	(87)	(95)		①ローム粒を含む褐色土単層 ②検出面と堀土中に小礫 ③中期土器片14 (第21図19) ④黒曜石剥片1 ⑤底面から南壁にビット3 小堅穴76・78と重複新旧不明
78	B V-56他	楕円形	(87)	(98)	34	①ローム細粒を多く含む褐色土単層 ②検出面に小礫1 ③中期土器片14 ④黒曜石剥片3 ⑤小堅穴77と重複新旧不明
79	C A-44他	楕円形	(148)	(94)	60	③中期土器片2 ⑤未調査部有
80	欠番					③中期土器片4 ⑤ロームマウンド
81	C B-46他	楕円形	100	88	13	①褐色土単層 ⑤未調査部有
82	C A-45他	楕円形	129	105	46	①ロームブロック・ローム粒を含む褐色土単層 ②底面から土器片1 ③中期土器片1
83	B X-45他	隅丸方形	108	82	28	①ローム粒を含む褐色土単層 ⑤底面は凸凹
84	B V-46	円形	43	38	32	①ローム細粒を含む黒褐色土単層 ⑤柱穴状であるが底面は中央が窪む丸底
85	B V-45	楕円形	51	45	25	①ローム粒を含む黒褐色で、底面近くにローム粒が多い。⑤丸底で壁の立ち上がりはだらだら
86	B V-45	楕円形	58	48	15	①ローム粒を含む黒褐色土単層
87	B W-45	楕円形	72	55	27	⑤底面から壁にビット2
88	B U-46	楕円形	74	56	32	⑤小堅穴2基の重複か
89	B U-48他	隅丸方形	151	101		①ローム粒を含む褐色土、北寄り底面近くはローム粒が多い。北側からの自然埋没 ②検出面壁際に火熱でひび割れた礫1 ⑤底面から壁にビット2
90	B U-48他	楕円形	(152)	(92)	53	①ロームブロック・ローム粒を多量に含む褐色土で、ロームブロックは中層に多く、その下層はブロックが少ない ③中期土器片1 ④スクレーパー1 (第21図20)、黒曜石剥片2 ⑤小堅穴91と重複本址が新しい
91	B T-48他	楕円形	(155)	(130)	52	①ローム粒を含む褐色土で、上層は黒味が増すが分層できない ⑤小堅穴90と重複本址が古い
92	B T-47	楕円形	48	38	26	
93	B S-48他	楕円形	94	83	17	①ローム粒を含む褐色土で、底面近くはローム粒が多い ③中期土器片1 ④黒曜石剥片2
94	B S-47	楕円形	(102)	(65)	55	①ローム細粒を多量に含む黄褐色土単層 ⑤未調査部有
95	B R-47他	楕円形	100	82	37	③中期土器片1 ④黒曜石剥片2 ⑤10号住居址と重複新旧不明
96	B Q-47	楕円形	110	76	50	③中期土器片5 ④黒曜石剥片1 ⑤10号住居址と重複新旧不明
97	B R-47	楕円形	(64)	(51)	7	⑤未調査部有 10号住居址ビット
98	B R-47他	隅丸方形	(81)	(44)	41	⑤未調査部有

99	B R-49他	不整形	128	110	62	①レンズ状堆積 大きくみて4層 上層はローム粒を含む黒褐色土、上中層は多量のロームブロック・ローム粒と炭化物を含む黒褐色土、上中層は多量のローム粒と炭化物を含む黒褐色土、下層はローム粒と炭化物を含む黒褐色土 ②検出面に土器片1 ③中期土器片6 ④黒曜石剥片1 ⑤10号住居址と重複新旧不明
100	B P-49	不整形	57	53	17	①ローム粒を含む褐色土で、底面近くはローム粒が多い
101	B P-49	円形	60	58	8	①ローム粒を含む黒褐色土で、壁際はローム粒がやや多い ②検出面に小礫 ③中期土器片2、後期土器片1(第21図21) ⑤壁上部は落下 底面に小ビット2
102	B X-48	楕円形	(77)	(60)	28	①ローム粒を含む不安定な褐色土単層 ⑤小竪穴185と重複新旧不明
103	B W-48他	楕円形	138	104	47	①ローム粒を含む褐色土で、底面近くはローム粒が多い
104	B K-51他	円形	82	76	37	
105	B D-46	楕円形	126	68	5	①ローム粒を含む黒色土単層 ③中期土器片4
106	B W-49	楕円形	56	42	27	
107	B V-49	楕円形	102	73	27	①ローム細粒を含む褐色土で、壁際はローム細粒が多い
108	B R-49	円形	46	42	21	①ローム細粒を含む褐色土単層 ②検出面に土器片 ③中期土器片2 ⑤10号住居址ビット
109	B V-47他	不整形	116	79		①ローム細粒を含む褐色土単層 ③中期土器片1 ⑤底面から壁にビット6
110	B X-48他	楕円形	(82)	(77)	38	①ローム細粒を含む不安定な褐色土単層 ⑤小竪穴75と重複新旧不明
111	B R-48	楕円形	49	41	20	①ローム細粒を含む褐色土単層 ②埋土中に土器片 ③中期土器片1 ⑤10号住居址ビット
112	C A-47	楕円形	83	68	27	①ローム細粒を含む褐色土単層 ③中期土器片1
113	B Y-48他	楕円形	64	57	49	①ローム細粒を含む不安定の黒褐色土単層 ⑤柱穴状
114	B Y-48他	楕円形	93	58	47	①ローム細粒を多量に含む黄褐色土単層
115	B Y-49	円形	115	103	11	①ローム細粒を含む褐色土単層 ②二段の落ち込み中から土器片 ③中期土器片3 ⑤底面は二段に落ち込み、その中に小ビット
116	B X-49他	楕円形	82	55	28	⑤12号住居址ビット
117	B Y-48他	楕円形	170	123		⑤底面から壁にビット3重複か
118	B X-48	楕円形	(84)	(52)	35	⑤小竪穴185と重複新旧不明
119	B T-51他	隅丸方形	(106)	(55)	11	①黒褐色土と黒色土が混じりあい不安定(攪乱) ②埋土中に土器片 ③中期土器片5 ④黒曜石剥片1 ⑤小竪穴120と重複新旧不明、耕作の攪乱?
120	B T-51他	楕円形	(128)	(82)	20	①黒褐色土と黒色土が混じりあい不安定(攪乱) ⑤小竪穴119と重複新旧不明、耕作の攪乱?
121	B W-49	楕円形	92	53	26	③中期土器片1 ⑤小竪穴184と重複新旧不明
122	B T-48他	隅丸方形	137	96	45	③中期土器片4 ④黒曜石剥片1
123	B W-50他	楕円形	62	56	49	①ローム粒を含む褐色土単層 ③中期土器片4 ⑤12号住居址ビット

124	BN-45他	楕円形	(51)	(41)	28	①ローム細粒を含む黒色土単層 ③中期土器片 ⑤小堅穴147と重複新旧不明
125	BV-49	円形	45	38	40	③中期土器片 1
126	CD-70	楕円形	75	61	15	
127	CG-63他	楕円形	(92)	(88)	31	③中期土器片 1 ⑤未調査部有
128	CE-63他	円形	82	72	21	①ローム粒を含む黒褐色土単層 ②検出面に礫 1
129	CB-63	円形	80	66	18	①ローム粒を含む色土単層
130	CA-63他	不整形円形	67	63	18	①ローム細粒を含む褐色土単層 ③中期土器片 1 ⑤底面にビット 2
131	CA-64	楕円形	59	51	5	①ローム細粒を含む褐色土単層
132	BX-63他	楕円形	71	60	20	①ローム細粒と僅かな炭化物を含む褐色土単層 ②底面に浅鉢 1 (第21図22)、礫 2 ④剥片 1
133	BY-62	楕円形	65	56	20	①ローム粒を含む褐色土単層 ②検出面に土器片 ③中期土器片 1 ⑤底面にビット 1
134	BY-61	楕円形	94	71	7	①ローム細粒を含む褐色土単層 ②検出面壁際に小礫 1 ③中期土器片 1 ⑤底面に小ビット 1
135	BX-61他	楕円形	94	78		①ローム粒を含む黒色土単層 ③中期土器片 1
136	BY-49	隅丸方形	51	38	28	④黒曜石剥片 1 ⑤12号住居址ビット
137	CA-45	円形	97	75	110	②検出面に礫 2 石柱か ⑤未調査部有 小堅穴31・186と重複新旧不明
138	BF-47他	円形	54	48	22	⑤7号住居址と重複新旧不明
139	BH-46	楕円形	146	116	48	③中期土器片 3 ④結晶片岩剥片 1、黒曜石剥片 1 ⑤近・現代の溝と重複溝が旧、従って本址は近・現代
140	BI-47	楕円形	74	56	51	⑤近・現代の溝と重複 溝が新
141	BJ-46	不整形円形	(108)	(95)	13	⑤小堅穴142と重複新旧不明
142	BJ-46	円形	(38)	(52)		⑤小堅穴141と重複新旧不明
143	BL-45	円形	40	35	27	①ローム細粒を含む黒褐色土単層
144	BM-45	円形	41	37	9	①ローム細粒を含む黒褐色土単層
145	BM-47他	楕円形	(54)	(41)	7	①ローム細粒を含む褐色土単層 ⑤浅いすり鉢状、小堅穴157と重複新旧不明
146	BN-44	楕円形	(63)	(44)	20	①ローム細粒を含む黒褐色土単層
147	BN-45	楕円形	(46)	(28)	14	①ローム細粒を含む褐色土単層 ⑤小堅穴124と重複新旧不明
148	BN-46	楕円形	76	58	12	⑤底面にビット 1
149	BO-46	円形	(108)	(96)	15	⑤未調査部有、南壁際に柱穴状の小ビット
150	BO-47	隅丸方形	(83)	(63)	19	⑤未調査部有
151	BO-47	円形	41	39	33	
152	BO-48	楕円形	84	72	25	⑤8号住居址ビットか?
153	BN-51他	隅丸方形	(124)	(40)	55	①ロームブロック・ローム粒を多く含む黒褐色土 ②底面に人骨、煙管、寛永通宝 中期土器片 2 ⑤未調査部有、近世の基礎

154	B O-50他	楕円形	(98)	(54)	20	⑤小墜穴60と重複
155	B O-50	楕円形	(60)	(30)	19	⑤小墜穴65と重複新旧不明
156	B P-51	円形	44	41	22	
157	B P-50	円形	(65)	(64)	24	⑤小墜穴158と重複新旧不明
158	B P-50	円形	(83)	(73)	37	⑤小墜穴157と重複新旧不明
159	B Q-51	楕円形	48	39	34	
160	B Q-50	不整形	60	50	24	
161	B Q-50	楕円形	50	44	28	
162	B S-52	楕円形	71	60	23	
163	B T-53他	不整形	53	44	18	
164	B U-51他	円形	(80)	(81)		⑤小墜穴165と重複新旧不明、耕作の擾乱?
165	B U-51	楕円形	(80)	(80)	11	⑤小墜穴164・166と重複新旧不明、耕作の擾乱?
166	B U-50他	円形	(70)	(71)	25	⑤小墜穴165と重複新旧不明、耕作の擾乱?
167	B U-49他	円形	53	52	20	
168	B U-47	楕円形	75	43	17	
169	B U-47	円形	57	52	23	
170	B U-47他	楕円形	(98)	(67)	38	
171	B U-46	楕円形	48	42	27	
172	B U-45	隅丸方形	(110)	(40)	20	耕作の擾乱か
173	B U-50	楕円形	51	44	15	
174	B U-49	楕円形	62	51	24	
175	B V-47	楕円形	53	42	29	
176	B V-47他	楕円形	67	43		⑤底面にビット2
177	B V-48	楕円形	55	43	33	
178	B V-47	楕円形	82	68	15	
179	B V-46	楕円形	46	37	20	
180	B V-45他	楕円形	80	66	11	⑤底面に小ビット3
181	B V-44	楕円形	(48)	(36)	15	⑤未調査部
182	B W-48他	楕円形	(61)	(50)	29	⑤小墜穴183と重複新旧不明
183	B W-48	不整形	(60)	(35)	16	⑤小墜穴182と重複新旧不明
184	B W-49	不整形	(80)	(33)	18	⑤小墜穴121と重複新旧不明、12号住居址のビット?
185	B X-48	楕円形	(50)	(44)	27	⑤小墜穴102・118と重複新旧不明
186	C A-45他	長方形	(236)	(130)	17	⑤小墜穴31・137と重複新旧不明
187	B X-50	隅丸方形	96	84	(67)	②糎3、⑤5号住址と重複新旧不明

表3 掲載土器一覧表

## 縄文時代 土器

( ) 付け数値は現存値

図版番号	出土地点	土器名・状態	時期	口径cm	底径cm	器高cm	
第5図1	2号壺穴住居址	破片	縄文時代中期後葉				内面横磨き。かたくしまっている。曾利Ⅱ。
第5図2	2号壺穴住居址	破片	縄文時代中期後葉				内面横磨き。外面は磨耗している。曾利Ⅱ。
第5図3	5号壺穴住居址	深鉢	縄文時代中期後葉	(14.9)	(6.1)	(20.8)	大きき異なる摺手が一對。頸部縦の縦線状隆帯で4区画。間は楕円区画。胴部は4単位の渦巻文。
第5図4	5号壺穴住居址	深鉢	縄文時代中期後葉	14.1	6.1	15.2	口縁部連続弧文。胴部沈線で16区画。胴部地文綾紗文を施文。底部木炭灰。
第5図5	5号壺穴住居址	深鉢	縄文時代中期後葉	(35.5)	(10.1)	(49.3)	胴部蛇行隆帯で4区画。間にU字状隆帯文1単位ずつ。胴部地文歯状工具で施文。
第5図6	5号壺穴住居址	深鉢	縄文時代中期後葉	15.4	(6.9)	21.0	小突起2単位。胴部蛇行沈線で4区画。整形・輪縁あり。胴上半部保存着。
第5図7	5号壺穴住居址	深鉢	縄文時代中期後葉	16.7	6.3	24.3	大小突起3単位ずつ。胴部蛇行沈線で4区画。間にU字状沈線文2単位ずつ。胴部地文半線竹管で施文。胴上半部保存着。
第5図8	5号壺穴住居址	深鉢	縄文時代中期後葉	(23.3)	(9.6)	(25.8)	突起5単位。口縁部沈線による円形の凹あり。胴部U字状沈線で5区画。間に蛇行沈線1単位ずつ。胴部地文半線竹管で施文。
第6図9	5号壺穴住居址	深鉢	縄文時代中期後葉				内面横ナゲ。輪縁あり。曾利Ⅱ。
第6図10	5号壺穴住居址	深鉢	縄文時代中期後葉	(22.0)	(9.4)	(25.7)	胴部地文歯状工具で施文。胴上半部保存着。
第6図11	5号壺穴住居址	深鉢	縄文時代中期後葉	(17.2)	6.5	18.3	胴部蛇行沈線で区画。胴部地文半線竹管で施文。底部凹痕有。
第6図12	5号壺穴住居址	破片	縄文時代中期後葉				かたくしまっている。白っぽい。曾利Ⅱ。
第6図13	5号壺穴住居址	破片	縄文時代中期後葉				内面に突付いたような凹あり。外面に炭化物付着。曾利Ⅱ。
第6図14	5号壺穴住居址	破片	縄文時代中期後葉				内面横磨き。口縁部に炭化物が付着。曾利Ⅱ。
第6図15	5号壺穴住居址	破片	縄文時代中期後葉				内部横磨き。曾利Ⅱ。
第6図16	5号壺穴住居址	破片	縄文時代中期後葉				口縁部に炭化物付着。曾利Ⅱ。
第6図17	5号壺穴住居址	破片	縄文時代中期後葉				内面口縁部横磨き。金雲母を含む。曾利Ⅱ。
第7図18	5号壺穴住居址	破片	縄文時代中期後葉				ていねいな整形。口縁部に炭化物付着。曾利Ⅱ。
第7図19	5号壺穴住居址	破片	縄文時代中期後葉				かたくしまっている。曾利Ⅱ。
第7図20	5号壺穴住居址	破片	縄文時代中期後葉				ていねいな整形。かたくしまっている。曾利Ⅱ。
第7図21	5号壺穴住居址	破片	縄文時代中期後葉				外面に炭化物付着。曾利Ⅱ。
第7図22	5号壺穴住居址	破片	縄文時代中期後葉				金雲母を若干含む。曾利Ⅱ。
第7図23	5号壺穴住居址	破片	縄文時代中期後葉				ていねいな整形。かたくしまっている。曾利Ⅱ。
第7図24	5号壺穴住居址	破片	縄文時代中期後葉				内面横磨き。曾利Ⅱ。
第7図25	5号壺穴住居址	破片	縄文時代中期後葉				金雲母を多量に含む。縦面に走る縄文がある。加曾利Ⅱ式。
第7図26	5号壺穴住居址	破片	縄文時代中期後葉				外面が磨減している。曾利Ⅱ。
第9図1	6号壺穴住居址	深鉢	縄文時代中期後葉	17.0	8.3	(30.9)	大把手と横状摺手がそれぞれ一對。頸部縦の縦線状隆帯で2区画。間は楕円区画。胴部隆帯による左巻きの磨草文飾。
第9図2	6号壺穴住居址	深鉢	縄文時代中期後葉	25.2	9.2	34.4	胴部縦帯で4区画。胴部地文綾紗文を施文。胴部保存着。
第9図3	6号壺穴住居址	深鉢 埋塞	縄文時代中期後葉	31.0	9.6	38.0	口縁部連続弧文縁。口唇部より下9cm煤・炭化物付着。胴部蛇行隆帯で8区画。胴部地文歯状工具で施文。底部アジロ成。
第9図4	6号壺穴住居址	深鉢 伏塞	縄文時代中期後葉	27.6	(21.8)	(20.2)	口縁部突起と連続弧文で6区画。胴部交互の蛇行沈線、縦帯文で6区画。胴部地文半線竹管で施文。口縁部保・炭化物付着。
第9図5	6号壺穴住居址	深鉢 伏塞	縄文時代中期後葉	(34.3)	(24.9)	(13.2)	口縁部連続弧文で8区画。胴部蛇行沈線で8区画。胴部地文歯状工具で施文。

第9図6	6号竪穴住居址	深鉢	縄文時代中期後葉	(32.4)	(22.1)	(12.6)	口縁部連続弧文で7区画。胴部太い平行の沈線で7区画。胴部地文櫛歯状工具で施文。
第9図7	6号竪穴住居址	ミニチュア土器	縄文時代中期後葉	(5.2)	(2.6)	(6.4)	胴部地文糸織りに埋める。炭化物わずか付着。
第10図8	6号竪穴住居址	深鉢	縄文時代中期後葉	(28.4)	(9.7)	(31.0)	胴部隆帯による区画文と懸垂文。胴部地文半波竹管で施文。唇部かなり摩滅。
第10図9	6号竪穴住居址	深鉢	縄文時代中期後葉	26.5	(9.3)	(31.1)	胴部低隆帯による懸垂文で5区画。胴部地文半波竹管で施文。
第10図10	6号竪穴住居址	深鉢	縄文時代中期後葉	23.0	(8.4)	25.6	胴部低隆帯による懸垂文で4区画。胴部地文半波竹管で施文。口縁部一部線・炭化物付着。
第10図11	6号竪穴住居址	深鉢	縄文時代中期後葉	18.4	(7.3)	25.1	胴部低隆帯による懸垂文で4区画。胴部地文半波竹管で施文。口縁部線・炭化物付着。底部は火熱でもろい。
第10図12	6号竪穴住居址	深鉢	縄文時代中期後葉	18.9	7.3	23.4	胴部低隆帯による懸垂文で4区画。胴部地文半波竹管で施文。口縁部線・炭化物多量に付着。内面も底に炭化物付着。
第10図13	6号竪穴住居址	深鉢	縄文時代中期後葉	23.2	(7.8)	26.8	胴部蛇行沈線で13区画。胴部地文櫛歯状工具で施文。口縁部線付着。
第10図14	6号竪穴住居址	破片	縄文時代中期後葉				内面横ナデ。摩滅している。金雲母含む。曾利Ⅱ。
第10図15	6号竪穴住居址	破片	縄文時代中期後葉				内面横ナデ。曾利Ⅱ。
第10図16	6号竪穴住居址	破片	縄文時代中期後葉				内面横ナデ。金雲母含む。曾利Ⅱ。
第10図17	6号竪穴住居址	破片	縄文時代中期後葉				内面横磨き。曾利Ⅱ。
第10図18	6号竪穴住居址	破片	縄文時代中期後葉				内面横ナデ。外面に炭化物付着。摩滅している。金雲母含む。曾利Ⅱ。
第11図19	6号竪穴住居址	破片	縄文時代中期後葉				内面横磨き。摩滅している。金雲母含む。曾利Ⅳ。
第11図20	6号竪穴住居址	破片	縄文時代中期後葉				内面横磨き。外面に炭化物付着。金雲母含む。曾利Ⅳ。
第11図21	6号竪穴住居址	破片	縄文時代中期後葉				内面横磨き。外面に炭化物付着。大きい砂粒含む。曾利Ⅳ。
第11図22	6号竪穴住居址	破片	縄文時代中期後葉				内面横、横ナデ。かたくしまっている。曾利Ⅴ。
第11図23	6号竪穴住居址	破片	縄文時代中期後葉				内面横磨き。かたくしまっている。内外面に炭化物付着。
第11図24	6号竪穴住居址	破片	縄文時代中期後葉				内面横磨き。外面に炭化物付着。摩滅している。
第11図25	6号竪穴住居址	破片	縄文時代中期後葉				断面に炭化物付着。底部に網代痕あり。
第14図1	7号竪穴住居址	深鉢	縄文時代中期後葉	(27.2)	(7.7)	(32.3)	口縁部連続弧文による突起4単位。胴部地文L・R縄文。唇部摩滅。香草文系下伊那タイプ。
第14図2	7号竪穴住居址	破片	縄文時代中期後葉				内面横磨き。金雲母含む。曾利Ⅰ。
第14図3	7号竪穴住居址	破片	縄文時代中期後葉				白砂粒多量に含む。全体的にザラつき感。曾利Ⅱ。
第14図4	7号竪穴住居址	破片	縄文時代中期後葉				内面横ナデ。しまっている。曾利Ⅱ。
第14図5	7号竪穴住居址	破片	縄文時代中期後葉				内面横磨き。ていねいな整形。明るい黄褐色。曾利Ⅱ。
第14図6	7号竪穴住居址	破片	縄文時代中期後葉				かたくしまっている。白っぽい。伊那谷系。
第14図7	7号竪穴住居址	破片	縄文時代中期後葉				内面はザラついている。白砂粒多量に含む。曾利Ⅱ。
第14図8	7号竪穴住居址	破片	縄文時代中期後葉				もろい。金雲母含む。曾利Ⅱ。
第14図9	7号竪穴住居址	破片	縄文時代中期後葉				もろい。白砂粒多量に含む。金雲母含む。曾利Ⅱ。
第14図10	7号竪穴住居址	破片	縄文時代中期後葉				内面横ナデ。金雲母含む。把手部分。曾利Ⅲ。
第14図11	7号竪穴住居址	破片	縄文時代中期後葉				内面横ナデ。かたくしまっている。黄褐色。曾利Ⅱ。
第14図12	7号竪穴住居址	破片	縄文時代中期後葉				白砂粒多量に含む。ソーメン状の粘土粒。曾利Ⅲ。
第14図13	7号竪穴住居址	破片	縄文時代中期後葉				内外面横ナデ。若干のザラつきがある。白砂粒多量に含む。曾利Ⅲ。

第14図14	7号壑穴住居址	破片	縄文時代中期後葉				内面横磨き。かたくしまっている。金雲母を含む。曾利Ⅱ。
第14図15	7号壑穴住居址	破片	縄文時代中期後葉				内面横磨き。金雲母含む。曾利Ⅱ。
第14図16	7号壑穴住居址	破片	縄文時代中期後葉				内面にザラつきがある。外面はていねいな整形。金雲母を含む。曾利Ⅱ。
第16図1	8号住居址	破片	縄文時代中期後葉				内面横磨き。金雲母含む。曾利Ⅱ。
第16図2	8号住居址	破片	縄文時代中期後葉				内面横磨き。外面に炭化物付着。金雲母含む。曾利Ⅱ。
第16図3	8号住居址	破片	縄文時代中期後葉				ていねいな横磨き。かたくしまっている。曾利Ⅱ。
第16図4	9号住居址	破片	縄文時代中期後葉				内面横磨き。外面ザラザラしている。曾利Ⅱ。
第16図5	9号住居址	破片	縄文時代中期後葉				内面横磨き。内面炭化物付着。外面摩滅している。曾利Ⅱ。
第16図6	9号住居址	破片	縄文時代中期後葉				内面横磨き。かたくしまっている。外面に炭化物付着。曾利Ⅱ。
第16図7	9号住居址	破片	縄文時代中期後葉				内面横磨き。
第16図8	9号住居址	破片	縄文時代中期後葉				ていねいな磨き。外面に炭化物付着。白砂粒多量を含む。
第16図9	9号住居址	破片	縄文時代中期後葉				内面横ナア。外面に炭化物付着。曾利Ⅱ。
第16図10	9号住居址	破片	縄文時代中期後葉				内面に炭化物付着。曾利Ⅱ。
第16図11	9号住居址	破片	縄文時代中期後葉				内外面ていねいな磨き。かたくしまっている。
第16図14	10号住居址	破片	縄文時代中期後葉				大きい砂粒を含む。摩滅している。曾利Ⅱ・Ⅲ。
第16図15	10号住居址	破片	縄文時代中期後葉				内面横磨き。かたくしまっている。外面に炭化物付着。曾利Ⅱ。
第16図16	10号住居址	破片	縄文時代中期後葉				内面横ナア。白っぽい。曾利Ⅱ。
第16図18	11号壑穴住居址	破片	縄文時代中期後葉				白砂粒を含む。
第20図1	遺構外 扉外透壘	漆鉢	縄文時代中期後葉	(54.5)	(10.3)	61.6	口頸部文字状厚4単位。胴部低い隆帯による渦巻文4単位。胴部地文菊歯状工具で施文。
第20図2	小壑穴13	破片	縄文時代中期初葉				金雲母含む。九兵衛尾根。
第20図3	小壑穴13	破片	縄文時代中期初葉				内面ザラザラしている。外面に炭化物付着。金雲母多量を含む。
第20図4	小壑穴13	破片	縄文時代中期初葉				金雲母多量を含む。九兵衛尾根。
第20図5	小壑穴13	破片	縄文時代中期初葉				金雲母含む。
第20図6	小壑穴13	破片	縄文時代中期初葉				金雲母多量を含む。
第20図7	小壑穴13	破片	縄文時代中期初葉				内面横ナア。外面横磨き。金雲母多量を含む。九兵衛尾根。
第20図8	小壑穴13	土製円盤	縄文時代中期初葉	長さ3.0	幅3.1	高さ0.9	もろい。金雲母含む。九兵衛尾根。
第21図9	小壑穴14	破片	縄文時代中期初葉				もろく。摩滅している。外面に炭化物付着。金雲母、石英を多量を含む。
第21図10	小壑穴14	破片	縄文時代中期初葉				黄褐色。焼成はあまり良くない。
第21図12	小壑穴21	破片	縄文時代中期初葉				金雲母多量を含む。九兵衛尾根。
第21図16	小壑穴38	破片	縄文時代中期初葉				洗鉢。かたくしまっている。金雲母含む。整形良好。
第21図19	小壑穴77	破片	縄文時代中期初葉				ていねいな整形。金雲母含む。九兵衛尾根。
第21図21	小壑穴101	破片	縄文時代後期				内面横磨き。ていねいな整形。かたくしまっている。漆漬縄文。
第21図22	小壑穴132	洗鉢	縄文時代中期初葉				洗鉢。内外面一部磨り減っている。金雲母多量を含む。
第21図25	焼土1	破片	縄文時代中期初葉				輪積痕あり。底部に網代痕あり。曾利Ⅳ。
第21図26	焼土1	破片	縄文時代中期初葉				底部に網代痕あり。曾利Ⅳ。
第22図30	遺構外	破片	縄文時代中期後葉				白砂粒含む。有子。曾利Ⅱ～Ⅲ。
第22図31	遺構外	破片	縄文時代中期後葉				底部アジロ痕。外面ザラついている。
第22図32	遺構外	破片	縄文時代中期後葉				底部アジロ痕。金雲母含む。
第22図33	遺構外	破片	縄文時代中期後葉				底部アジロ痕。内面横ナア。器面ていねいな横磨き。



第22図34	遺構外	破片	縄文時代中期後葉				底部アジロ痕。
第22図35	遺構外	破片	縄文時代中期後葉				底部アジロ痕。
第22図36	遺構外	破片	縄文時代中期後葉				底部木炭痕。器面は荒れている。
第22図37	遺構外	破片	縄文時代中期後葉				底部木炭痕。白砂粒多量に含む。
第22図38	遺構外	破片	縄文時代中期後葉				底部木炭痕。胎土、粘土が柔らかく白砂粒を含む。
第22図39	7号竪穴住居址	破片	縄文時代中期初葉				内面横磨き。密でかたくしまっている。
第22図40	7号竪穴住居址	破片	縄文時代中期初葉				金雲母含む。
第22図41	7号竪穴住居址	破片	縄文時代中期初葉				金雲母含む。
第22図42	7号竪穴住居址	破片	縄文時代中期初葉				内面ていねいな横磨き。胎土、焼成とも良好。
第22図43	7号竪穴住居址	破片	縄文時代中期初葉				洗鉢。かたくしまっている。金雲母含む。
第22図44	6号竪穴住居址	破片	縄文時代中期初葉				内面横磨き。外面磨滅している。金雲母含む。
第22図45	6号竪穴住居址	破片	縄文時代中期初葉				洗鉢。外面横ナダ。金雲母含む。
第22図46	遺構外	破片	縄文時代中期初葉				内面ザラザラしている。金雲母多量に含む。
第22図47	遺構外	破片	縄文時代中期初葉				内面ザラザラしている。
第22図48	遺構外	破片	縄文時代中期初葉				金雲母含む。
第22図49	遺構外	破片	縄文時代中期中葉				内面ていねいな磨き。底内。
第22図50	7号竪穴住居址	破片	縄文時代中期中葉				外面が磨滅している。金雲母、大きめの砂粒を含む。底内。
第22図51	遺構外	破片	縄文時代中期中葉				内外面とも磨滅している。白っぽい。

#### 平安時代 土器

( ) 付け数値は現存数

図版番号	出土地点	土器名・状態	時期	口径cm	底径cm	器高cm	備考
第26図134	遺構外	土師器	平安時代	(9.3)	4.9	(3.2)	杯。糸切底。

表4 掲載石器一覧表

#### 縄文時代 石器

( ) 付け数値は現存数

図版番号	出土地点	石器名	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg	石材	備考
第7図27	5号竪穴住居址	石鏃	2.2	1.5	0.4	0.9	黒曜石	
第7図28	5号竪穴住居址	石鏃	1.8	1.3	0.3	0.5	黒曜石	
第7図29	5号竪穴住居址	石鏃	1.8	1.6	0.5	1.0	黒曜石	
第7図30	5号竪穴住居址	石鏃	4.0	0.9	0.5	1.9	黒曜石	
第7図31	5号竪穴住居址周溝	石匙	2.9	5.6	0.8	11.7	黒曜石	
第7図32	5号竪穴住居址周溝	スクレーパー	3.3	6.5	0.5	15.2	黒曜石	
第7図33	5号竪穴住居址	石匙	6.5	7.0	1.0	46.1	凝灰岩	
第7図34	5号竪穴住居址	磨製石斧	(7.8)	(5.1)	(3.0)	(201.7)	輝緑凝灰岩	基部欠 磨方向不明
第7図35	5号竪穴住居址	凹石	(16.7)	(12.6)	(4.4)	(1115.0)	輝石安山岩	上面・裏面欠損
第7図36	5号竪穴住居址No.3	凹石・叩石	11.6	9.1	6.1	835.0	輝石安山岩	叩き痕あり
第8図37	5号竪穴住居址	石皿	(27.7)	(30.8)	(8.2)	9000.0	輝石安山岩	裏面磨・凹痕有
第11図26	6号竪穴住居址	石鏃	(2.0)	(1.5)	(0.2)	(0.4)	黒曜石	片欠欠
第11図27	6号竪穴住居址	石鏃	1.6	1.4	0.2	0.4	黒曜石	
第11図28	6号竪穴住居址	石鏃	(1.6)	(1.2)	(0.3)	(0.4)	黒曜石	両脚欠
第11図29	6号竪穴住居址	石鏃	(1.5)	(1.5)	(0.2)	(0.3)	黒曜石	先端欠
第11図30	6号竪穴住居址	石鏃	(2.1)	(1.1)	(0.3)	(0.6)	黒曜石	半分欠
第11図31	6号竪穴住居址	石鏃	(1.9)	(1.1)	(0.3)	(0.6)	黒曜石	先端・両脚欠
第11図32	6号竪穴住居址	石鏃	(2.7)	(2.3)	(0.5)	(2.2)	黒曜石	片欠欠
第11図33	6号竪穴住居址	石鏃	3.0	2.4	0.9	5.7	黒曜石	

第11図34	6号整穴住居址	石鎌	2.1	0.8	0.35	0.6	黒曜石	
第11図35	6号整穴住居址	石鎌	1.8	1.0	0.3	0.4	黒曜石	
第11図36	6号整穴住居址	石匙	3.1	3.0	0.9	4.5	黒曜石	横型
第11図37	6号整穴住居址	石匙	3.1	0.8	0.3	1.2	黒曜石	縦型
第11図38	6号整穴住居址	スクレーパー	1.7	3.0	0.4	2.7	黒曜石	
第11図39	6号整穴住居址	スクレーパー	3.2	3.2	0.6	4.8	黒曜石	
第11図40	6号整穴住居址	打製石斧	(6.5)	(6.5)	(1.6)	(80.6)	粘板岩	基部欠
第11図41	6号整穴住居址	横刃製石器	(5.9)	(7.0)	(1.2)	(88.7)	粘板岩	基部欠
第11図42	6号整穴住居址No5	磨製石斧	10.5	5.0	2.1	222.8	蛇紋岩	刃部使用者
第11図43	6号整穴住居址	凹石	8.5	10.9	4.5	535.0	輝石安山岩	裏面凹有
第11図44	6号整穴住居址	凹石	8.5	9.5	5.7	540.0	輝石安山岩	凹4面に有
第11図45	6号整穴住居址	凹石	7.0	8.0	5.1	286.3	輝石安山岩	裏面凹有
第11図46	6号整穴住居址No1	凹石	11.9	9.2	4.3	625.0	輝石安山岩	裏面弱い凹有
第12図47	6号整穴住居址No3	凹石	10.4	8.9	3.9	445.0	輝石安山岩	裏面弱い凹有
第12図48	6号整穴住居址No6	凹石	10.5	8.9	5.8	750.0	輝石安山岩	裏面弱い凹有
第12図49	6号整穴住居址No13	凹石	10.1	8.2	5.4	570.0	輝石安山岩	裏面凹ナシ
第12図50	6号整穴住居址No9	凹石	11.5	9.3	6.3	810.0	輝石安山岩	裏面弱い凹有
第12図51	6号整穴住居址No11	凹石	(9.0)	(10.0)	(6.3)	(555.0)	輝石安山岩	欠損 裏面凹有
第12図52	6号整穴住居址No7	凹石	8.5	9.6	3.1	329.0	輝石安山岩	裏面凹有
第12図53	6号整穴住居址No17	凹石	16.1	7.4	3.0	381.7	輝石安山岩	裏面凹弱い
第12図54	6号整穴住居址No12	凹石・摩石	(8.3)	(11.1)	(4.0)	(530.0)	輝石安山岩	側面破損
第12図55	6号整穴住居址No10	凹石・摩石	12.3	7.9	3.8	490.0	輝石安山岩	裏自然面
第12図56	6号整穴住居址	凹石・摩石	(9.8)	(8.0)	(3.4)	(342.4)	輝石安山岩	裏破損
第12図57	6号整穴住居址No8	凹石・摩石	7.4	8.9	6.4	475.0	輝石安山岩	側面凹有 裏面ナシ
第12図58	6号整穴住居址No14	凹石・叩石	10.9	7.4	3.7	450.0	輝石安山岩	右側面以外は叩破有
第12図59	6号整穴住居址No16	凹石	4.5	6.2	4.3	140.0	輝石安山岩	凹余体的に弱い
第12図60	6号整穴住居址	蜂の巣石	34.9	18.0	12.9	9200.0	輝石安山岩	
第15図17	7号整穴住居址	石鎌	(1.6)	(1.6)	(0.2)	(0.4)	黒曜石	先端欠
第15図18	7号整穴住居址	石鎌	1.7	(1.1)	(0.2)	(0.4)	黒曜石	側面わずか欠
第15図19	7号整穴住居址P4	石鎌	2.0	(1.2)	(0.25)	(0.5)	黒曜石	片欠欠
第15図20	7号整穴住居址	石鎌	2.1	2.0	0.5	2.0	黒曜石	
第15図21	7号整穴住居址P5	石鎌	2.4	1.1	0.6	1.6	黒曜石	
第15図22	7号整穴住居址カクラン穴	石鎌	(2.3)	(1.6)	(0.7)	(2.6)	黒曜石	先端欠
第15図23	7号整穴住居址P1	スクレーパー	(2.1)	(4.2)	(0.8)	(5.6)	黒曜石	
第15図24	7号整穴住居址	定形磨製石斧	4.0	1.8	0.8	9.7	輝緑凝灰岩	
第15図25	7号整穴住居址カクラン穴	定形磨製石斧	4.4	1.6	0.6	6.0	頁岩?	
第15図26	7号整穴住居址	打製石斧	12.4	4.4	1.7	102.4	輝緑凝灰岩	
第15図27	7号整穴住居址	打製石斧	5.2	3.1	1.3	22.3	黒色安山岩	
第15図28	7号整穴住居址炉石	凹石	6.2	6.5	2.8	294.5	輝石安山岩	全体的に敲打か?
第15図29	7号整穴住居址	凹石	17.2	7.1	3.6	600.0	輝石角閃石安山岩	
第15図30	7号整穴住居址	凹石	16.3	12.9	7.1	1620.0	輝石安山岩	
第16図12	9号住居址	凹石・磨石	11.0	8.5	4.6	625.0	輝石安山岩	4面磨石として使用 裏面凹有
第16図13	9号住居址	凹石	(10.5)	(7.6)	(5.5)	(369.3)	輝石安山岩	半分欠 一部摩破有
第16図17	10号住居址	スクレーパー	3.4	3.2	1.4	18.0	黒曜石	
第21図11	小整穴18	打製石斧	(8.7)	(4.1)	(0.8)	(38.3)	結晶片岩	刃部欠
第21図13	小整穴35	凹石	10.8	8.2	5.7	620.0	輝石安山岩	裏面凹有
第21図14	小整穴37	打製石斧	(10.4)	(5.2)	(1.8)	(115.4)	硬砂岩	
第21図15	小整穴37	凹石	(10.3)	(6.8)	(3.4)	(207.4)	輝石安山岩	破損

第21図17	小壺穴38	打製石斧	13.0	5.1	3.8	377.6	結晶片岩	
第21図18	小壺穴73	石鏃	2.2	1.3	0.4	0.7	黒曜石	
第21図20	小壺穴90	スクレーパー	2.5	3.9	0.4	4.8	黒曜石	
第21図23	小壺穴35	垂鈎	4.0	2.2	1.5	7.5	琥珀	
第21図24	小壺穴35	垂鈎	3.2	2.5	1.8	17.3	翡翠	
第21図27	焼土1	石鏃	(3.0)	(1.5)	(0.5)	(1.6)	黒曜石	脚欠
第22図28	焼土1	凹石	7.6	4.0	3.9	183.5	輝石安山岩	裏面凹有 全体的に敲打か
第22図29	小壺穴134	凹石	(10.4)	(10.4)	(2.9)	(384.9)	輝石安山岩	破損
第23図52	B X-45	石鏃	(1.6)	1.4	0.3	(0.6)	黒曜石	先端欠
第23図53	B O-47	石鏃	1.8	1.5	0.2	0.6	黒曜石	
第23図54	B U-56	石鏃	(2.1)	(1.5)	(0.4)	(0.9)	黒曜石	片脚欠
第23図55	B Z Z	石鏃	(1.3)	(0.9)	(0.3)	(0.3)	黒曜石	半分欠
第23図56	B V-50	石鏃	(2.5)	(1.7)	(0.2)	(0.6)	黒曜石	片脚欠
第23図57	B T-50	石鏃	(2.2)	(1.0)	(0.3)	(0.5)	黒曜石	半分欠
第23図58	B M-45	石鏃	2.1	1.3	0.5	1.0	黒曜石	
第23図59	B R-50	石鏃	2.1	1.4	0.4	0.7	黒曜石	
第23図60	B N-49	石鏃	(1.7)	1.5	0.4	(0.7)	黒曜石	片脚先端欠
第23図61	B W-51	石鏃	1.5	1.2	0.3	0.3	黒曜石	
第23図62	トレンチ22	石鏃	(1.5)	(1.2)	(0.2)	(0.2)	黒曜石	片脚先端欠
第23図63	B P-49	石鏃	1.4	1.2	0.2	0.5	黒曜石	
第23図64	B E-46	石鏃	1.6	1.4	0.2	0.5	黒曜石	
第23図65	B Y-50	石鏃	(1.6)	1.7	0.2	(0.8)	黒曜石	先端欠
第23図66	B Z Z	石鏃	1.2	1.4	0.4	0.5	黒曜石	
第23図67	B G-46	石鏃	2.8	1.8	0.4	1.3	黒曜石	
第23図68	B O-48	石鏃	(4.3)	2.3	0.3	6.6	黒曜石	
第23図69	B E-46	スクレーパー	1.7	1.3	0.2	0.6	黒曜石	
第23図70	B Q-49	不定型石器	2.8	1.3	0.4	1.3	黒曜石	
第23図71	B V-53	不定型石器	2.2	2.4	0.4	1.9	黒曜石	
第23図72	B V-55	不定型石器	2.1	2.4	0.7	2.3	黒曜石	
第23図73	B Z Z	スクレーパー	1.6	2.8	0.6	4.4	黒曜石	
第23図74	B W-56	使用痕のある剥片	1.6	3.2	0.4	2.1	黒曜石	
第23図75	B Y-45	使用痕のある剥片	3.2	1.1	0.3	1.0	黒曜石	
第23図76	B U-53	使用痕のある剥片	3.0	1.3	0.6	1.9	黒曜石	
第23図77	B H-46	垂鈎	(2.5)	(1.9)	(0.9)	(6.1)	滑石	半分欠 両側面に成形痕残る
第23図78	B V-52+B V-52	打製石斧	10.0	3.8	0.9	44.7	粘板岩	接合 発掘の際の割れ
第23図79	B F-46	打製石斧	11.5	5.1	1.3	93.1	結晶片岩	磨耗痕有
第23図80	B H-45	打製石斧	10.3	4.3	0.9	70.8	輝石凝灰岩	磨耗痕有
第23図81	B T-54	打製石斧	8.4	5.2	1.5	90.6	緑泥片岩	磨耗痕有 磨損部つぶし
第23図82	B P-48	打製石斧	(8.1)	(6.8)	(2.9)	(179.4)	硬砂岩	刃部欠
第23図83	B Z Z	打製石斧	(11.4)	(6.3)	(1.4)	(116.1)	硬砂岩	基部欠
第23図84	B Z Z	打製石斧	(8.9)	(5.5)	(1.8)	(111.4)	砂岩	刃部欠
第23図85	B P-48	横刃型石器	7.2	10.0	1.0	86.3	粘板岩ホルンフェルト	熱を受けたか? ほぼ全周磨耗痕有
第23図86	B Y-57	横刃型石器	6.1	7.8	1.3	75.3	粘板岩	
第23図87	B Z Z	磨製石斧	(4.5)	(5.6)	(2.6)	(107.9)	輝緑岩?	基部のみ
第23図88	B S-50	凹石	10.8	6.7	4.2	410.0	輝石安山岩	
第23図89	B J-47	凹石	10.1	5.9	4.6	334.7	輝石安山岩	両側面・裏面凹有

第23図90	B X-51	凹石・叩石	11.2	6.5	3.6	331.8	輝石安山岩	上・下側面・裏面・両側面凹有
第23図91	B N-46	凹石	(11.9)	(5.1)	(5.6)	(565.0)	輝石安山岩	凹浅い一部欠
第24図92	B W-47	凹石	(9.2)	(7.0)	(5.0)	(410.0)	輝石安山岩	裏面凹有
第24図93	B X-51	凹石	10.0	6.9	5.6	525.0	輝石安山岩	左側面凹有
第24図94	B N-49	凹石	(11.0)	(7.3)	(7.2)	(770.0)	輝石安山岩	凹浅い一部欠
第24図95	B U-57	凹石	14.0	6.5	2.6	308.3	輝石安山岩	
第24図96	B U-48	凹石	12.4	6.2	4.9	410.0	輝石安山岩	
第24図97	B N-49	凹石・叩石	14.2	5.6	4.5	440.0	輝石安山岩	左側面叩き 裏面凹有 磨面有
第24図98	B K-50	凹石	(12.6)	(7.3)	(7.2)	(580.0)	輝石安山岩	裏面凹有
第24図99	C O-61	凹石 ?	11.9	8.7	6.7	655.0	輝石安山岩	表面広い範囲で薄く剥れた感じ
第24図100	C A-42	凹石	8.5	8.6	5.3	311.6	輝石安山岩	
第24図101	B Q-49	凹石・叩石	(9.2)	(7.6)	(4.0)	(321.6)	輝石安山岩	裏面凹有 上下・左側面叩き有
第24図102	B K-49	凹石	8.9	7.7	7.3	445.0	輝石安山岩	裏面凹有
第24図103	C D-61	凹石	8.3	6.2	6.2	260.0	輝石安山岩	裏面凹有
第24図104	B R-50	凹石	8.0	7.5	7.5	400.0	輝石安山岩	
第24図105	ロームマウンド2	凹石	11.6	9.1	4.7	710.0	輝石安山岩	上側面・右側面・裏面凹有
第24図106	B H-48	凹石	(4.3)	(6.4)	(3.7)	(93.0)	輝石安山岩	割欠
第24図107	B Q-48	凹石	(7.0)	(7.3)	(3.1)	(204.6)	輝石安山岩	割欠
第24図108	B V-47	凹石	(7.8)	(7.3)	(4.6)	(355.0)	輝石安山岩	割欠
第24図109	B Z Z	凹石	7.9	7.1	3.9	320.6	輝石安山岩	凹浅い
第25図110	B N-49	凹石	7.4	6.3	6.1	251.4	輝石安山岩	
第25図111	B K-45	凹石	12.7	11.5	7.6	1410.0	輝石安山岩	裏面欠
第25図112	B N-49	凹石	12.1	10.3	6.2	1210.0	輝石安山岩	
第25図113	B N-49	凹石	(20.0)	(11.6)	(5.5)	(1860.0)	輝石安山岩	割欠
第25図114	B V-56	凹石・磨石	13.5	6.5	6.5	780.0	輝石安山岩	磨り面3面有
第25図115	No 2	凹石	(9.9)	(8.2)	(3.2)	(239.7)	輝石安山岩	裏欠
第25図116	No 4	凹石	(12.8)	(11.7)	(5.9)	(870.0)	輝石安山岩	裏欠
第25図117	No 5	凹石	8.8	6.3	4.9	390.6	輝石安山岩	裏面凹有が弱い
第25図118	No 8	凹石	(11.7)	(7.3)	(4.5)	(565.0)	輝石安山岩	欠損火熱によるか?
第25図119	No12	凹石	15.5	6.8	(3.4)	(670.0)	輝石安山岩	裏面凹有
第25図120	No10	凹石	13.3	7.0	4.8	535.0	輝石安山岩	裏面凹有
第25図121	No13	凹石	11.8	8.2	4.0	480.0	輝石安山岩	
第25図122	No14	凹石	9.0	6.5	3.7	375.0	輝石安山岩	凹弱い
第25図123	No11	凹石	11.9	5.8	4.6	470.0	輝石安山岩	左側面・裏面凹有
第26図124	No19	凹石	12.9	7.8	5.0	640.0	輝石安山岩	裏面凹有
第26図125	B Z Z	凹石	10.3	8.9	4.4	505.0	輝石安山岩	裏面凹有
第26図126	B Z Z	凹石	10.7	7.4	5.2	490.0	輝石安山岩	裏面凹有
第26図127	C Z Z	凹石	9.7	8.8	7.1	740.0	輝石安山岩	裏面凹有
第26図128	Z Z Z	凹石・磨石	(9.9)	(3.4)	(2.6)	(187.1)	輝石安山岩	欠損・裏面磨石
第26図129	Z Z Z	凹石・叩石	9.4	8.7	5.6	425.0	輝石安山岩	裏面全体的にはがれてる
第26図130	No 1	凹石	29.7	12.3	9.7	5500.0	輝石安山岩	
第26図131	No17	蜂の巣石	26.7	16.9	11.5	4800.0	輝石安山岩	裏欠
第26図132	No15	凹石	22.1	17.5	14.2	6200.0	輝石安山岩	裏凹有
第26図133	No 3	凹石	22.1	14.8	9.4	3300.0	輝石安山岩	



写真1 調査地区遠景（北西から）



写真2 調査区全景（北上空から）



写真3 調査区全景（上空から）



写真4 第5・6・9・11・12号竪穴住居址・小形穴群（上空から）

写真5  
第5号竪穴住居址  
(西から)



写真6  
第5号竪穴住居址  
遺物出土状態 (西から)



写真7  
第6号竪穴住居址  
(西から)



#### 写真図版 4

写真 8

第 6 号竪穴住居址  
遺物出土状態①(西から)



写真 9

第 6 号竪穴住居址  
遺物出土状態②(東から)



写真 10

第 6 号竪穴住居址  
炉址 (南から)





写真11

第6号竪穴住居址  
用甕埋設状態



写真12

第7号竪穴住居址  
(西から)



写真13

第7号竪穴住居址  
竈・焼土出土状態  
(北から)



写真図版 6

写真14

第8号住居址  
(西から)



写真15

屋外覆蓋  
埋戻し設伏蓋・土層



写真16

小壑穴群と障  
(北から)



写真17  
小形穴16・17

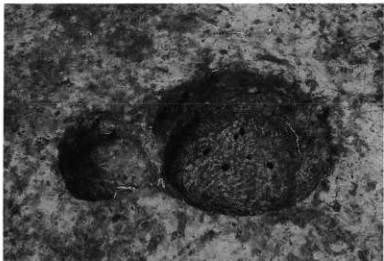


写真18  
小形穴16・17  
土層



写真19  
小形穴13  
遺物・露出土状態



写真図版 8

写真20

小墾穴132

土器出土状態



写真21

小墾穴35



写真22

小墾穴35

竪出土状態



写真23

小髷穴91・90・89

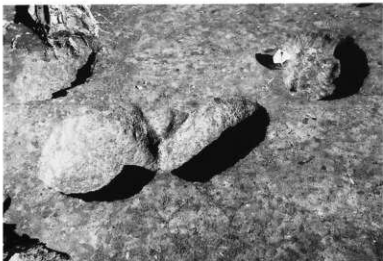


写真24

小髷穴91・90  
土層



写真25

小髷穴137



写真図版10

写真26

小墓穴38



写真27

小墓穴38

土層



写真28

小墓穴38

底面敷石露出面





第3図 遺構配置図 (1:200)

## 報告書抄録

ふりがな	くはちおねいせき							
書名	久保地尾根遺跡 (第10次発掘調査)							
副書名	平成17年度遺園及び宅地造成に伴う緊急発掘調査概報							
巻次								
シリーズ名	原村の埋蔵文化財							
シリーズ番号	70							
編著者名	平出 一治							
編集機関	原村教育委員会							
所在地	〒391-0192 長野県諏訪郡原村6549番地1 TEL 0266-79-7930							
発行年月日	西暦 2006年03月							
所収遺跡	所在地	コード		北緯 度分秒	東経 度分秒	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
久保地尾根	長野県諏訪郡 原村室内	3637	57	35度 57分 21秒	138度 13分 3秒	20050516 ～ 20051104	2,726	平成17年度遺園及び宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
久保地尾根	集落跡	縄文時代	中期 竪穴住居址 小竪穴 焼土址 近・現代 墓 溝	9軒 173基 2 1基 1	縄文時代 中期土器、石器、土製品、 石製品 平安時代 後期土師器			



## 調査組織

事務局 原村教育委員会

教 育 長 津金 喜勝

学校教育課長 佐貫 正憲

文化財係長 平出 一治

文化財係 平林とし美

調査団 団 長 津金 喜勝 (原村教育委員会教育長)

調査担当者 平出 一治

調 査 員 平林とし美

調査参加者	発掘調査	鎌倉 光弥	小島久美子	小林 英子	小林 りえ
		小松 弘	坂本 康代	坂本ちづる	篠原サカエ
		清水 正進	田中 初一	西沢 寛人	藤森伸太郎
		芳沢 一夫	和田 孝幸		
	整理作業	鎌倉 光弥	小島久美子	小林 りえ	坂本ちづる
		和田 孝幸			

原村の埋蔵文化財70

### 久保地尾根遺跡 (第10次発掘調査)

平成17年度発掘調査及び宅地造成に伴う緊急発掘調査概報

発行日 平成18年 3 月

発 行 原村教育委員会  
長野県諏訪郡原村

印 刷 ほおずき書籍(株)

